

Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会会報 第396号

目 次

グラビア ふるさと自慢

い な げ

巻 頭 言	1
お知らせ	2
重点事業へのアプローチ	3～6
会 務	7～24
理事会のうごき	25～26
ゴルフ大会	27～28
渉 外	29
事業推進部	30～34
母校だより	35～44
支部のうごき	45～53
クラス会だより	54～59
OB会・グループ・サークルだより	60～62
庶務日誌	63～65
追 悼	66
逝去会員	66～67
投稿規定	68
へんしゅうこうき	69

表紙写真の説明

「水道橋校舎西棟完成予想図」

「芝桜と富士山」

日 時：2014年5月17日

撮影場所：山梨県富士山麓

昭和39年卒 中信支部 片倉恵男先生 撮影

ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

うどん県，それだけじゃない香川県

香 川 県



高松港の夕日

「うどん県」というネーミングがすっかり定着してしまった香川県は大まかに表すと南北約30km，東西約100kmの半円形に似た，現在日本一面積の狭い県，四国の右上です。

なぜか，松山や高知と間違えられてしまう県庁所在地，高松市には特別名勝栗林公園と，源平の合戦場となった屋島があります。国の特別名勝に指定されている庭園の中で，最大の広さを持つ栗林公園は，西側の紫雲山を借景とし，すぐれた地割り，石組みを有し，



栗林公園



高松市内より屋島と五剣山を臨む



丸亀市の骨付鳥

一步一景といわれる変化に富んだ美しい江戸時代初期の回遊式大名庭園です。

源平合戦の古戦場として名高い屋島は、おそらく一度見たら忘れられないほど特徴的で美しいフォルムをもつ、瀬戸内海に突きだした巨大な溶岩台地です。その隣には5つの剣（1つは江戸時代に地震で崩落）のような岩が山上にそびえる五剣山があります。どちらにも山上には四国遍路の札所（84番札所屋島寺、85番札所八栗寺）があり、八栗寺にはとてもレトロなケーブルカーで上がることができます。

香川県に来たら絶対に食べていただきたい、うどん以外のものと言えば、丸亀市の骨付鳥。鶏の骨付も肉をニンニクの効いたスパイスで味付けし、オープン釜などで焼き上げたもので、歯に自信がない方にはおすすめできないほど噛みごたえがあるおやどりと、柔らかくて食べやすいひなどりの2種類があります。

そしてなんといっても、最後はうどん。讃岐うどんを打つときの塩加減を指す言葉に土三寒六常五

杯というのがあります。土用の時期と寒い時期、通常の季節での塩の配合量を表す言葉ですが、厳密に言えば、うどん屋さんではその日の気温や湿度で水や塩の加減を、職人の経験をもとに毎日変えて打っているのだそうです。夏と冬では全く配合量は異なるのですが、食べる側からすると違いを全く感じない、そういうところが、職人技なのです。そんなことも頭に入れて讃岐うどんを食べると、また違った感動があるかもしれません。

同窓諸兄からは「四国にはまだ行ったことがない」というお声がよく聞かれます。是非一度、四国



昭和39年製造のケーブルカー

香川へお越しいただき、うどんもうどん以外も堪能していただければと思います。

（平成8年卒 鳥養智子）



さぬきうどん

千葉病院ロビーコンサートのピアノ …お嫁に来たピアノ…

昭和50年卒業 茂木悦子 記

昭和56年卒業 橋本貞充 写真

ロビーコンサートをお話するには今千葉病院に置かれているピアノのことに触れなければなりません。

夏の日のある懇親会で、英語のウィリアムズ先生（当時）が実はイギリスの音大のご出身でもあり、ピアノの名手であることを聞きました。知らなかったこととはいえびっくりしました。そこで、ロビーコンサートの初回は何とんでもピアノコンサート、それも30年もピアノを封印してきたというウィリアムズ先生のピアノをぜひ聞きたい！と思いました。恐る恐る先生におたずねすると、「あー、いいですよ、でもおくさんのほうが上手です、おくさんに頼みます」意外にあっさりとお引き受けいただきました。

さて、ロビーコンサートがどうやら開催できる方向になってきたものの、ピアノの調達をどうした

ものか…最初はレンタルでも、と考えていましたが意外と高い。そこで、新聞で時々出ている「弾かないピアノをお譲りください」という広告を

思い出しました。ダメもとでも一回やってみよう、と矯正学講座が連絡で使っているメーリングリストで流してみました。

すると間もなく、山崎康博先生（平成12年卒）から実家に弾いてないピアノがあると連絡があり、しかもお住まいは美浜区磯辺で千葉病院とは目と鼻の先。こんなラッキーなことってあるんだ、と



山崎先生のところからお嫁に来たピアノ

ほったたをつねりたいくらいでした。早速ピアノを拝見し、お父上の博道先生（昭和45年卒）の「嫁にだすようなものだ」とのお言葉に甘え、千葉病院1階待合ロビーに運ばせていただきました。



高野前千葉病院院長より山崎博道先生へ感謝状の贈呈（第3回時）



第1回 ウィリアムズ先生ご一家の演奏

いよいよ、第1回ロビーコンサート。ウィリアムズ先生ご一家によるピアノの演奏に100名を超えるお客様はすっかり堪能された様子でした。

その後、ピアノはコンサート限定使用とし、コンサート前には調律し、演奏者にはベストコンディションのピアノを提供しています。音に深みがあってよく響き、タッチの応答がほどよく、弾きやすいピアノだと演奏者からも高い評価を得ています。

寄贈された山崎博道先生もコンサートには足をお運びくださり、演奏を楽しんでおられました。第4回の計画を練っていた2013年9月のある日、山崎博道先生の訃報が伝わってきました。言葉に尽くせない残念なことでした…。

しかし、先生の“娘”のピアノはこれからもコンサートの度に聴く者に感動を与え、大活躍することでしょう。

千葉病院を訪れたら、そしてタイミングよくコンサートに遭遇されたらぜひ、このピアノに様々な思いを馳せていただけたら、と思います。

写真の説明：

第1回（平成24年9月29日）

ウィリアムズ先生ご一家のピアノコンサート。特に先生と奥様との連弾は圧巻でした。

第2回（平成25年1月26日）

村田憲一郎先生（昭和50年卒・ドラムス）率いるトリオ。ピアノ・小杉雄一先生（昭和52年卒）、ベースはプロの三橋洋介さん。

ジャズの生演奏を病院ロビーで聴けるなんて感動的でした。

第3回（平成25年6月29日）

門平忠一郎先生（昭和43年卒）、竹元ゆうき先生（昭和57年卒）、中井麗子さん（衛生士校OG）による本格的な声楽。ロビーの天井まで揺るがすような迫力にじびれました。

そして、前号でお知らせしました第4回の東京歯科大学管弦楽部有志による演奏へと繋がるのです。



第2回 村田先生、小杉先生のジャズコンサート



第3回 左から、中井さん、門平先生、竹元先生による初夏の歌声

ご案内



◆東京歯科大学千葉病院 第5回ロビーコンサート◆

夏の日のピアノの調べ（仮）

日時：2014年7月26日（土）開場13：45 開演14：00

会場：東京歯科大学千葉病院1階待合ロビー

出演：加藤京子（昭和58年卒）小林祥子（本学4年生）

◆東京歯科大学管弦楽団 第37回定期演奏会◆

日時：2014年7月27日（日）開場14：00 開演14：30

会場：東京歯科大学千葉校舎 講堂

指揮：直井大輔

皆様のお越しをお待ちしております！

遺産と資産



副会長

宮 地 建 夫

現在、支部に属する一般会員は高齢会員などを除くと4,500余名。

108支部のなかで100名以上が7支部、逆に29支部は15名に満たず、その内の10支部にいたっては10名以下となっている。この支部格差を時代の流れとして諦観することは易しい。だが、この現実を見据えて将来の同窓会をどう捉えるか考えることこそが、今、私たちの課題ではないか。

会員の少ない支部は、会計基盤も弱く支部活動が極度に制約を受けることは容易に想像できる。同じ同窓でありながら、地区歯科医師会等での立場が各支部によって差が生じていることに加え、親睦の機会、学術交流、冠婚葬祭等の諸々の情報交換が極度に制約を受ける現実は見逃しがたい。支部会員数のバラツキは単に量的問題ではなく、そのことが同じ同窓会員でありながら、享受可能な権利という質的格差に繋がっていくことが問題なのだ。

本来同窓が平等に持つはずの選択肢の幅、リスク対処や回避の可能性すら極端に制約を受けるとなると、単なる心配ごとでは済まされまい。会員間の不平等・不公平感といった不条理な格差は、測るものさしがあるわけではなく、相対的な受け止め方という側面が強いため正面切って不満顔もとりにくく、なかなか表に現れないため見過ごされがちだ。

実際、どの支部からも不公平感を訴えられたことはないが、同窓会が拠って立つ伝統的な“家族主義”に照らして支部間の格差をしっかりと受け止め、さらに広がるかもしれないこのリスクを共有することができなければ、同窓会はその存在価値さえも問われかねない。この格差を抗しきれない流れだとすれば、単なる会費の再分配などで補える部分は限られるだろう。だからこそ、私たちはもう少し、先のことを見据えるべきではないか。同窓会の執行部が進めている構造改革の大きな役割は、実はこの広い意味でのサイレントマイノリティーからのシグナルを見逃さない新しいシステムづくりと位置づけるべきだ。

もう一つは、有形の見返りがなくても、自分の所属する団体が社会的に誇れる組織として存在し、同じ同窓会員が多方面に指導的な立場で活躍していることが、同窓会組織の大きな証であると受け止められれば、同窓の一員として居心地の良い「居場所」を見いだしてもらえるのではないかという視点だ。

事業改革としてのアカデミア構想は、同窓会の次代を担う人材を育成するのが狙いだ。少し時は要するが、歯科医学的にも歯科医療的にも、医政を含め社会的視野を兼ね備えた人間味豊かなリーダーが育成されることが、帰属する同窓会を誇り、距離や人数にまつわる格差を超え同窓会の存在感を公平に享受できることに繋がる。

すでに、我が同窓には、地域医療を支え後輩のお手本になる優れた人材が全国でくまなく活躍している。この高山血脇先生からの遺産ともいえる“国手”の存在こそがアカデミア構想の構成母体であり、今後長く続く後輩たちの利用可能な資産でもある。

お知らせ

理事会より

- 今年より、「総会」はなくなりました。事前の届出により「評議員会」は傍聴ができますのでご希望の方は、事務局にご連絡ください。「新進会員のつどい」は、参加費は無料ですので、ぜひ多くの新進会員（卒後5年以内）のご参加をお待ちしております。

同窓会事業・行事

- 学年代表者会
と き 平成26年7月13日（日）
ところ 東京歯科大学水道橋校舎新館11階 第1講義室
- 第42回全国ゴルフ大会
と き 平成26年9月15日（月・祝）
ところ おおむらさきゴルフ倶楽部（埼玉県）
- 平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会
と き 平成26年11月2日（日）
ところ 如水会館
- 新進会員のつどい
と き 平成26年11月30日（日）
ところ 東京歯科大学水道橋校舎本館13階 第1講義室
- TDC 卒後研修セミナー2014プログラム

卒研セミナー

- No.4 臨床セミナー「どうして定期健診を受診してくれないの？」
～行動科学を知ろう～ 7月27日（日）
- No.5 臨床セミナー「困った…！ 義歯の悩み解消します」
～あんなこと、こんなこと…実際の症例を通して考えていきましょう～
9月21日（日）

- No.6 臨床実技セミナー「MTM 新時代」
～歯科矯正用アンカースクリューの有効性を検証する～ 10月12日（日）
- 特別企画 インプラントセミナー –臨床から基礎へ、基礎から臨床へ– 「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
～科学的根拠をもったインプラント臨床を实践するために～
7月26日・27日（土・日）

地域支部連合・支部関係

●支部長交代

平成26年2月9日付

岡山県支部 伊丹 義明 氏（昭46卒）
前支部長 倉田 庸生 氏（昭54卒）

平成26年2月13日付

下谷支部 鈴木千枝子 氏（昭53卒）
前支部長 笹間 悦正 氏（昭59卒）

平成26年3月1日付

荒川支部 大島みどり 氏（昭57卒）
前支部長 宮下 達也 氏（昭35卒）

平成26年3月31日付

室蘭支部 山本 内匠 氏（昭51卒）
前支部長 古谷 忠雄 氏（昭43卒）

平成26年4月1日付

渋谷支部 松野 修次 氏（昭51卒）
前支部長 青木 栄夫 氏（昭41卒）
沖縄県支部 友利 隆俊 氏（昭60卒）
前支部長 新垣 元洋 氏（昭51卒）

母校関係行事・案内

- 平成26年度東京歯科大学学会
第298回総会 平成26年10月18日（土）・19日（日） 水道橋校舎新館
演題締切 8月26日（火）

重点事業へのアプローチ

準会員へのアプローチ

若いうちから同窓会に親しみをもてるよう若い先生方を対象に準会員制度と新進会員制度を昨年より始めました。勉学に励む在学生に同窓会がどのようにアプローチすることができるかが課題でしたが、今回大学のご配慮で同窓会報を準会員の母校在学生に直接配り、同窓会の意味について説明することができました。

第1回目は同窓会報12月号の配布で、1年生から3年生までは宮地建夫副会長、4年生には高橋義一専務理事が担当しました。もちろん突然教室にお邪魔して話すわけにもいきませんので、佐藤 亨学生部長（同窓会総務・厚生担当常任理事）にイントロをお願いしました。佐藤先生は同窓と在校生とのコーディネーター役で、さすがと思わせるお話しぶりで、静かな空気を介して遠くに感じていた学生さんたちは一瞬にして同窓会の役員に注目しクラス全員がすぐ近くに感じるようになりました。

1年生は英語の授業の時間の一部を使い、2グループにわかれて2回、2年生と3年生はホームルームの時間に全員が集まっているときに、4年生は社会歯科学の講義の時間の一部を利用してそれぞれトータルで20分ほど使って紹介をしました。学長と会長のご挨拶が表面に、裏面には『HPをとおして若手ネットワークに是非アクセスを』と呼びかけが載っているリーフレットを同窓会報と一緒に配りました。準会員の記事や母校だよりがあり、友達の写真をみつけて「おっ」といいながら話し声がいろいろなところで聞こえるようになるなど興味を持ってもらえたようです。まさに同窓会と準会員との距離が近づいたことを実感する一瞬で、次なる可能性も膨らんできました。今後できれば同窓会報が出るたびに訪れ、同窓会のいろいろな話をする。そんな地道なアプローチを重ねることにより自ずと卒業した時には同窓会に親近感をもって参加するようになるのではと考えています。さて話の内容ですが、宮地副会長が東京歯科大学校歌の歌詞を題材に大変面白い話をしました。ここでは宮地副会長に学生にお話しした内容をまとめてもらいましたので紹介しましょう。



学生諸君

今日は同窓会から、皆さんの持っている“資産”について話をしようと思って来ました。

少し外側からみると現在の東京歯科大学は羨望の的で、国家試験をはじめ文武両道まさに校歌の出だしの「校旗は燦たり」というところです。皆さんにお聞きしたいのは校歌の次です。「我らが志望」卒後どんな歯科医になりたいと考えていますか？歯科医の免許を取るのは目的でなく手段です。そして現在の歯科医の選択肢は驚くほど広がりを見せています。6年の学生時代は長いようで、短いものです。自分の志望が炎となれば、学生生活がとてつもなく有意義なものになるはずです。

歯科医としてどんな方向に進んだとしても、2つの基本軸はどんな時代になっても変わりません。一つは“窮理の治法”であり、一つは“ひとえに仁なり”です、この2つが合わさって“国手”つまり尊敬に値する歯科医に繋がると校歌は詠っています。窮理とは歯科医学の科学的根拠を学ぶことを指していますし、皆さんの毎日はここがメインです、もう一つの仁は歯科医療の倫理を一字で表したものです。東京歯科大学では優秀な研究・教育者が皆さんの“我が師”となって来ています。そして患者さんから慕われながら地域医療を支えているまさに最前線の先輩が全国各地に広がっています。この地域医療の担い手こそ歯科医療のそして仁の“我が師”なのです。皆さんは東京歯科大学に入学した瞬間から、同窓会のもっている全国各地の“我が師”を一



つの“資産”として手にしているわけです。その手にした資産を運用するには、まず同窓会の輪の中に入ることです。この同窓会誌はそのドアの開け方が載っています。

同窓の輪に入り“こぞりて磨けば、未来は響けり”となるはずで

す。

“国手”になった皆さんが、全国に広がり次代の後輩のための師になって下さい。最後はお願いになりましたが、貴重な授業時間を割いていただき、ありがとうございました。

校 歌

北原白秋：作詞 山田耕筈：作曲

校旗は燦たり風ひるがへれり

我らが志望は炎と騰れり

起て起て今こそ我が師に見えむ

醫はこれ済生ひとへに仁なり

国手の精神窮理の治法

こぞりて磨かむ未来は響けり

大学ホームページより

同窓会オリエンテーションを行ないました。

若手ネットワーク委員会・広報委員会
佐々木 葉 子

同窓会では、若い先生にとって、より身近な会であるように折々に同窓会の紹介を行っています。特にこの季節は母校の卒業式、臨床研修修了式などがあり、この機会に委員や理事が母校の教室等にお邪魔して同窓会の紹介を行いましたので、ご報告いたします。

3月14日(金) 119期卒業生へのオリエンテーション

今年度は、123名の新入会員を迎えました。そこで、卒業式の前日、佐藤 亨学生部長（同窓会総務・厚生部担当理事）、河田英司教務部長（同窓会事業推進部担当常任理事）のイントロにつづき、高野博子常任理事より、同窓会の組織について、同窓会のメリットと活用法について、また卒業生の半数を占める女子学生に継続就業の大切さが呼び掛けられました。佐々木葉子（若手ネットワーク委員会委員長・広報委員）より若手

支援ネットワークの活用法と広報委員会として会報・HP・FBの活用法を、お話をさせていただきました。若手支援ネットワークを活用し、新しく歯科医師としての道をスタートする先生方のお役にたてれば幸いです。最後に、山本雅通事業推進部卒後研修委員会プログラム委員長から卒研セミナーについてのご案内と臨床に向けての熱い思いが語られ、卒業生は皆熱心に耳を傾けていました。水道橋校舎における初めてのオリエンテーションでしたが、千葉校舎に比べ、卒業生達が近く其々の顔が良く見えて、思いが直接伝わっているような感じがしました。オリエンテーション終了後には、佐藤学生部長のお計らいでクラス代表を決定していただき、代表になった田中亜生先生、橋口あや子先生とご挨拶をすることが出来、今年度予定している「新進会員のつどい」準備会へのお誘いをする事も出来ました。その他にも、さっ

そく卒研セミナーやゴルフ大会の事、研修後の進路の相談、クラス会開催についてなどの質問をいただきましたので、この感じで良い関係を続けていければ、同窓会の事業にもきっと参加してもらえるのではないかと感じました。



クラス代表の先生たち

3月17日(月) 水道橋病院歯科医師臨床研修修了式

水道橋病院では、臼井常任理事より同窓会の概要について解説頂いた後、若手ネットワーク委員会北村 晃副委員長より若手支援ネットワークシステムの解説と同窓会 HP・FB の若手ネットワークメールボックスの宣伝を致しました。北村副委員長から「解説後



卒業生へのオリエンテーション



水道橋病院オリエンテーション

の会話で、他大学出身の先生には正直同窓会については良い反応は得られませんでした。メールボックスについては機会があれば利用したいという声がありました。縁あって水道橋病院で研修をされたこのような他大学出身の先生の対応についても今後さらに検討していかなければならないと感じました。そして研修医修了後にオリエンテーションを行うことはもちろん重要と考えますが、大学院卒業、レジデント終了で、病院を離れる時こそ、改めて同窓会について解説し、あなたは〇〇支部に属するのですよと伝えることが同窓会離れを防ぐ上で大事なのではないかと今回初めてこのような機会をいただき感じました。」とのご報告をいただきました。

3月24日(月) 千葉病院歯科医師臨床研修修了式

矢崎会長・宮地副会長が、臨床教授として講義を行ない、その中で同窓会の案内を行いました。両先生の講義は、研修を修了したばかりの先生のこれからの歯科医師人生にとって、とても大切な宝物になるはずです。研修を修了し新



宮地副会長の講義

しいスタートに立った先生方が、両先生の講義を聞くことが出来る…これこそ、東京歯科大学同窓会の大きなメリットだと思います。

3月25日(火) 市川総合病院歯科医師臨床研修修了式

財部副会長より、同窓会の組織についてのお話の後、広報、若手ネットワーク関係の案内を行いました。今年の修了生は、昨年度千葉病院で最後の卒業式を行なっ



市川病院研修医修了生と

た学年で、ちょうど1年前に、晴れ姿の写真を撮らせてもらった先生がいらっしゃいました。その時と比べ、顔つきも一段ときりっとして、立派に歯科医師として診療にあたられているのだろうと感じ、懐かしく、とても嬉しく思いました。我が校の卒業生ではない先生より、レジデントが修了し地元へ帰った際にも、東京歯科大学の同窓会員として研修会などに参加することは可能ですか・との質問をいただき、財部副会長より推薦会員について説明をいたしました。他大学の先生にも、東京歯科大学の同窓会に魅力を感じてもらえているのだと大変うれしく思いました。

我が校の卒業生や研修医修了生は、今後の歯科界を担うとても優秀な先生たちです。同窓会では、期待と不安に胸を膨らませ、新たなスタートに立った先生たちにとって、少しでもプラスになる情報を届けすることが出来るように、そして一人一人の顔が見える身近な同窓会であるように、しっかりと連携をとっていききたいと思います。



千葉病院オリエンテーション



市川総合病院オリエンテーション

会 務

東京歯科大学 井出学長との座談会

日 時：平成26年4月21日

場 所：水道橋校舎本館 14階会議室

出席者：

井出吉信 東京歯科大学学長
矢崎秀昭 東京歯科大学同窓会会長
宮地建夫 東京歯科大学同窓会副会長
浮地文夫 東京歯科大学同窓会副会長
財部正治 東京歯科大学同窓会副会長
臼田 準 東京歯科大学同窓会広報部・
広報委員会委員長



臼田委員長 学長との座談会も恒例になりまして、本年は矢崎会長、宮地副会長、浮地副会長、財部副会長と懇談を企画しました。水道橋への移転、国家試験、入学試験といろいろな面で明るいニュースが多い中、将来に向かっての大学の方向などを中心にいろいろお話が聞けるかと楽しみです。本日広報委員会委員長の臼田 準が進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

矢崎会長 井出先生、お忙しいところをありがとうございます。同窓会も新執行部が今年の新春発足しまして、井出先生を囲んで、今後の大学の状況等をぜひとも会員に知らせたいと思います。まず国

家試験、誠におめでとうございます。

井出学長 ありがとうございます。ほっといたしました。

矢崎会長 同窓会の会員には先般出ました『週刊朝日』のことを、井出先生のすばらしいコメントとともに、同窓会のネットワークを通じて皆様にお知らせいたしました。

井出学長 ありがとうございます。

矢崎会長 おかげさまで例えば歯科医師会等で、東京歯科ということだけでやはり他校も大変重んじてくれるということで、これもひとえに大学の教職員の皆様方、そして学生の頑張りだと思います。そこら辺がまず我々としては、大変素晴らしいことです。

それからまた、同窓会室が「南棟」のほうに移らせていただきまして、先生のご配慮で現在、大変すばらしい機能を発揮させていただいております。各種委員会、あるいは講習会等にも使わせて戴い

ております。これによりまして同窓会の活動が大変活発に行われるのではないかと、これから各支部とか、あるいは地域支部連合会に行って、大学がこのように同窓会のことをいろいろ考えてくれているということをよくお話をして、これからいよいよ「西棟」等誠に大変だと思いますけれども、同窓会が大学を支援するというような体制をぜひつくっていきたいと思います。

■ 国家試験に関して

臼田委員長 まず国家試験のことから先生、ひとつお話をよろしくお願いいたします。

井出学長 3年間連続で1位にな



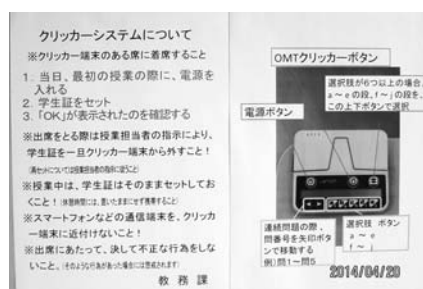
れたというのは大変喜ばしいことで、一番頑張ったのは学生には間違いないのですが、学生をサポートする教員には本当にきめ細かく指導してもらっているので大変ありがたく思っています。時々他の大学の先生から、東京歯科はどのように教育しているのかと聞かれるのですが、東京歯科は今までの伝統として、教員が学生のことを一番に思い丁寧に指導するという精神が脈々と受け継がれているのだと思います。また、週刊誌でコメントもしましたが、友達同士と一緒に勉強し、互いに高め合い、一緒に合格することを目指しています。これも昔からの伝統で、同窓会にも通じていますが、仲間意識といいますか、できる人ができない人を教えながら勉強をしていく、これが一番いい成果を出しているのかなと思っています。

■昔とは違ってきた教育

宮地副会長 昨日セミナーで新館8階の講義室を使わせてもらいましたが、机のところにクリッカーと言われるんですか、その説明を聞いたんですけど。我々の授業とは全く違って、全てがその場でどのぐらい理解しているかというのをチェックしながら授業を進めているというのは、ほんとにきめ細かくなってさすがだなと思いました。

井出学長 クリッカーシステムという新しいシステムを導入し、授業の途中でクリッカーによる理解度チェック用の問題を挟むことにより、学生の理解度が教員にリアルタイムでわかるようになっていきます。しかし、ベテランの教員は

顔を見ながら学生とやりとりをして、理解度などがわかりますので、クリッカーはあくまで補助で使うべきだと考えています。時々私は他の教科の授業を見に行くのです。学長が授業参観に行っても、教室に入ったということさえ気がつかない教員がいるのです。夢中になって、コンピューターの画面を見ながら話しているので、後で面談します。ある教員は、「先生、もう一回授業をやるから見てください」と言ってきたので、3カ月後に授業をもう一度見に行きました。そうしたらすごく上手くなっていて、学生とのやりとりができていました。平成15年度から年度末に授業評価を行っており、学生にアンケートをとって、評価の高い教員を表彰するようになっています。教授会で上位の先生に



図書券を贈呈しています。お互いに教員の教育力を高めようという雰囲気づくりと、特に若手の、次の時代を担う先生を育てているということです。

■母校入試状況

矢崎会長 もうひとつ国試とともに本年の入学志願者の方はいかが



2014年度新任講座主任教授

薬理学講座	笠原正貴教授
衛生学講座	杉原直樹教授
歯科理工学講座	河田英司教授
法歯学講座	橋本正次教授

2014年度市川総合病院診療科教授

泌尿器科	中川 健教授
リプロダクションセンター (産婦人科)	吉田丈児教授

平成26年度新入生

男性	56名 (44%)
女性	72名 (56%)
計	128名

平成26年度 新入生保護者 職種 新入生 128名

歯科医師子弟	72 (56.3%)
同窓	20 (15.6%)
非同窓	52 (40.6%)
医師子弟	24 (18.8%)
その他子弟	32 (25.0%)

でしたか？

井出学長 去年に比べて確かに増えました。

臼田委員長 本年度の入学試験の志願者が増えたというのは、もちろん国家試験の結果も踏まえてだと思うんですけども、こちらに移られて、施設、教育内容ということも変化してきて、その辺でも何か要因になっているのでしょうか。

井出学長 教務が非常にきめ細かく高校訪問して、大学の実情を伝えているということだと思います。高校の先生が歯科を勧める場合あまり情報を持っていないので、いろいろな高校に行って話をしているお蔭で、ここ2～3年、東京歯科はきちんと教育を行ってくれるという信頼感が出てきたのかなと思います。

臼田委員長 入学者の内訳はいかがでしょうか。

井出学長 そうですね。今年の特徴として女性が56%、72人います。全体の内訳ですが、同窓子弟が20名で15.6%、非同窓歯科医師の子弟が52名で40.6%、医師の子弟が24人いて18.8%、その他の職業の人の子弟が25%ですね。やはりほとんど家が歯科医院ですね。東京歯科の同窓のご子弟はみんな優秀で、医学部や国立に入っていますので、非同窓子弟の割合が高くなっています。

■超一流をめざして

浮地副会長 水道橋に戻ってきたことによって、地方の受験者と東京の受験者というのは様相が変わってきましたか。

井出学長 それほどでもないので

すが、千葉の一極というのは減ってきました。神奈川県、埼玉県、それから東京の新宿から先の人が増えています。

臼田委員長 今年度こちらのほうに全学生が移ってきて、水道橋を拠点として学生生活を送っていると思いますので、その辺でも違ってきているのではないのでしょうか。

宮地副会長 僕の友達で他校の先生が、前はここへくる機会があっても学生がいなかったんですけども、最近、玄関やエレベーターで学生に会うと、東京歯科の学生は外来のお客さんに対しても会釈するし、エレベーターを待っていてくれたりと、ものすごく感心しているんですよ。

井出学長 そうですか。

宮地副会長 ええ。僕も実際にそう思います。

井出学長 いや、私はまだ足りないと思っていますのです。

宮地副会長 いろいろな学校にいったみて、学生に違いがあるのを感じます。それは稲毛でもそうだったのか、水道橋に来てからか分かりませんが、歯科医としてやっぱり品のあるというか、人間味のある人が求められているので、学業だけでなく生活態度なども気を使っているのだらうと思われました。

井出学長 先生にそのように言っただけで大変うれしいです。水道橋病院のドクターや受付等の病院スタッフ、学生に対して、エレベーターに乗って私語は絶対にいけないと言ってます。接客ということでは、日本航空で客室乗務員の教官をしていた人が現

在は本学教員として、医療人としての服装や態度、言葉遣いなどを厳しく指導しています。しかしまだ足りないと思います。もっと完璧を目指し、一流ではなくて超一流でありたいと思っております。それにはまだまだ到達していませんので、ぜひ同窓の先生でご意見があったら伝えていただき、直していきたいなと思っています。

■歯科医づくりに向っての連携

浮地副会長 今の若い先生方が患者さんと接しているところを見ると、私たちが育った時代と違って非常に懇切丁寧で優しくて、言葉遣いもきちんとしています。あんなにまで患者さんに対して言葉遣いを丁寧にしなきゃいけないのかなと思うぐらい丁寧さがあるんですが、やっぱりそういったところも教育をなさっているということですか。

井出学長 もちろんそうです。ただ、態度はもちろん大切なのですが、今一番心配しているのが、それにプラスして本当の技術力というか診療力です。患者さんを迎え入れた時、義歯にしても歯内療法にしても、最も大切なのは診療内容です。その点は超一流にはまだ追いついていないと思っています。そこで、今は各講座に、例えば歯内療法の部屋に入ったら、1



年目には何をやって2年目3年目にはどこまでやってという、きちんとしたカリキュラムを作り、例えばどこで認定医を取ることができるのか、指導者になれるのは何年目からなのか、そうした指標をつくりなさいと言っています。いま東京歯科に受験生が来るのは、単に国家試験の合格率がいいということがあります。実は7割ぐらいの人の内半分以上は必ず歯科医のご子弟で、いずれ実家に帰るという人がほとんどです。そのような状況の中、例えば卒業して東京歯科に5年残っていれば、地方に帰った時でもある程度きちんと診療ができるというような形にしたいと考えています。単に国家試験の成績だけがいいという学校ではなく、東京歯科に入れば、態度や言葉遣いのマナーはもちろんのこと、生涯勉強する力とか、あるレベル以上の歯科の診療力みたいなものを身につけて欲しい。これが次の目標で、いま力を入れ始めたところなのです。

宮地副会長 そうですね。東京歯科大学に5年残れば一人前になって、そして地域でそれなりの指導者になれるという目標は、同窓会としても同じように考えていたのは、やっぱりこれから若手をどういうふうには人材育成というところのレベルにまで持ってくるかとい

うことを旗印に掲げて、若手中心に同窓会が一致団結して事業を展開するというような目標にしたんです。

それには大きく分けると診療能力を高めるという柱と、それからもう一つは医療の社会性というんですか、公共性というんですかね、医政も含めてそういう指導者に育てたいという二本柱で、それを統合して、仮に、生意気なようですけどアカデミア構想という名のもとに組織・事業を再編成しようじゃないかということです。

今考えているのは、臨床力を高めるには卒業して生涯研修の入り口で、生涯研修というのはどうやって学んでいくんだ、学生の知識修得とは少し違って、臨床という場で生涯研修をどういう方法でやればいいんだよというところを、卒後研修の委員会というところで考えています。これには三つの班があって、ここでもかなり具体的な易しい入り口論をやろうと思っています。それがあ程度成長したときは、その上にハンズオンのレベルアップをしていこうというのが臨床セミナー委員会が受け持っているところなんです。

先ほど先生がおっしゃっていた医局のカリキュラムを近いうちに発表できるというところは、ホップ・ステップ・ジャンプじゃないんですけど、同窓会のさらに上にジャンプという意味で専門医のコーナーがあってくると、一連続した研修ができるんじゃないかなというふうには思っております。

もう一つは、社会性を持った、公共性に目覚めた同窓であってほ

しいということで、社会歯科的という言葉は適当ではないのかもしれませんが、これにもやっぱりホップ・ステップ・ジャンプがあって、医療とは何だろうというのは基本的にそういうものの情報を勉強し合って、将来歯科医師会などでちゃんとした発言ができるように、そしてその上に立って、社会保障というような広い視野で歯科医師会でも指導的な役割がはたせるような人材育成をしていこうとおもっています。

ここで最初の基本的な教養というものが大切になってきますが、まだそこところはちょっと手をつけられないで残っているので、この辺もできれば大学の力をかりながら、先ほどの身だしなみのところも含めて、リベラルアーツというのがこれから重要なかなと思っています。

井出学長 大学は、先ほどお話しが出たところの決してジャンプではなく、一番元のホップなのかなと思います。この一番下のところが大学の卒業生で言うと医局員で、ここを逆にきちんと教育しなければいけないと思っています。

同窓会の学術の先生方は本当に手弁当で、診療が終わって忙しいのに、報酬もないのに、同窓会の部屋で夜中までいろいろな議論を交わして、自分のためではなく同窓のためにと一生懸命やっていたという先生だと思うのです。ですから、同じように、勉強会を行ったりアイデアを出し合ったり講座は講座の中でしっかりとやらなければならないことがあると考えています。

宮地副会長 その辺もあえて一緒



に交流するべきなのか、あるいは
独自で発展させて、いったほうが
いいのか、この辺が難しいところ
だと思うんですけども。

井出学長 研修医が終わり、講座
に一旦入った人と、一度も講座に
入らないで大学を離れた人とで
は、これがまた難しいですね。

宮地副会長 それはほんとに違い
ますよね、価値観も考え方も違い
ます。だから、それがほんとにお
互いに打ち解けて一つのグルー
プでやると、両方にとってもすご
く刺激になりやすいんですね。あ
、そういう発想をするのかという
ね。大学で少し学ぶと、やっぱり
学び方みたいなのが身につくので
すが、いきなり臨床を出た人の直
観力というのはまた無視できない
ものを持っていますから。

井出学長 大体そういうものだと
お互いに理解するか、かなり議論
を交わしてなるほどと言わない
と、なかなか難しいと思います。

宮地副会長 難しいところですね。

■「西棟」など

施設充実をめざす二次計画

臼田委員長 そうですね、今まで
築き上げてきたもの。水道橋に移
転して、それから次のステップと
いうことで、卒業してから以降も
トップレベルの歯科医師として成
長できるシステムの確立でしょう
か。

井出学長 そうです。東京歯科に
入れば当然100%歯科医になれて、
卒業して5年間ぐらい学校にきち
んといれば一流の診療力がつけら
れるシステムの確立です。5年間
ぐらい卒後研修ではないですが、

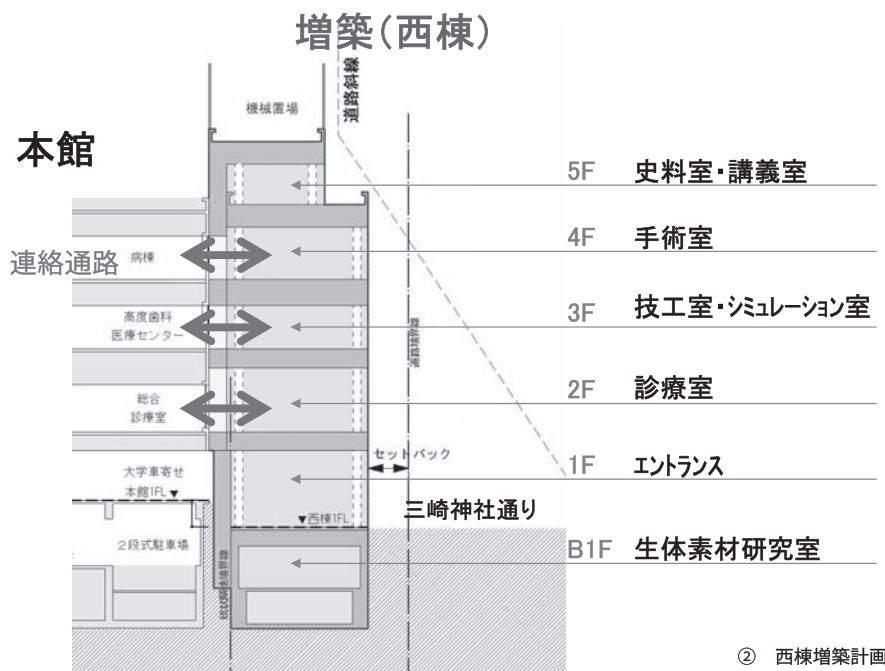
同窓の先生と一緒に学ぶ機会がで
けるといいのかなと思っていま
す。しかし、現在の水道橋校舎の
状況ではまだ狭く、技工室なども
整っておりません。今度建築する

西棟はシミュレーション室と技工
室をワンフロアに入れるので、そ
こに退職した先生あるいは同窓の
先生に来ていただき、少々狭くは
ありますが、実習ができるように

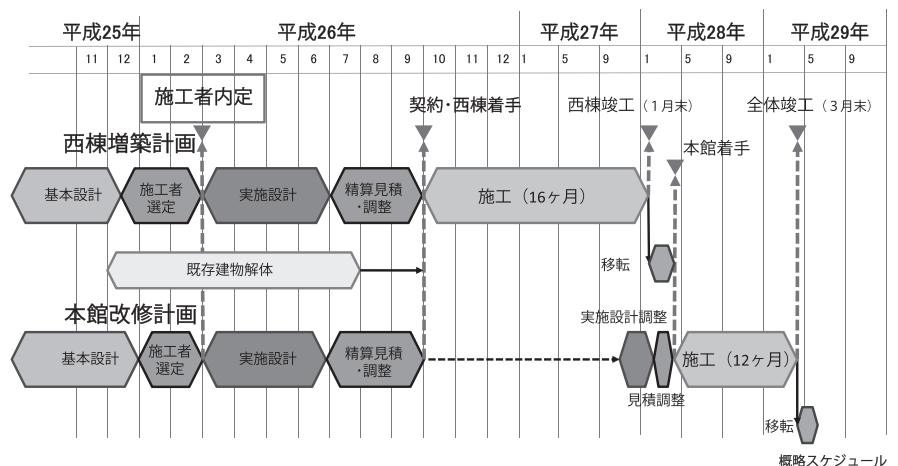


水道橋校舎本館西棟

主要用途：学校（大学）、病院
建築面積：約600㎡
延床面積：約3,250㎡
構造：S造（一部RC造）
階数：地下1階、地上5階
最高高さ：約30m



② 西棟増築計画



しておきたいなと思っております。

臼田委員長 ちょうど2次計画の話題に入ってきたと思うんですが、それについて、我々の同窓会室が入っている南棟とか、本館裏の西棟の辺で具体的に何かご質問などはありますか。

浮地副会長 教育という面から見れば、国家試験の結果などに如実に表れていますが、非常に東京歯科大学が充実しているということがわかるわけですが、この水道橋に移ってきて診療の面から見たときに、いま先生がおっしゃったとおり、まだまだちょっと足りない面があります。開業医の先生から紹介された患者さんに対する対応というところでは、どういうふうになっているのか。それによってまた西棟ができたときにはどのような体制になるのか、ちょっとお聞かせいただければありがたいですけど。

井出学長 東京都歯科医師会高橋会長とも連携をとということで話をしました。まだきちんと決まっていないのですが、特に口腔外科が一番多いと思いますが、医療連携を必ずしなければいけないと思っています。どのような連携が一番いいのか。例えば東京歯科OBの先生ではないところからの紹介、あるいは同窓の先生からの紹介など、きちんと連携をとらなくてはいけないと考えています。それから、摂食・嚥下とかリハビリテーションとかというものを千葉では随分やっていました。水道橋界限にはたくさんの大学がありますから、そういうところに伍して負けないようにきちんとネットワーク

を築いていく必要があると思っています。

臼田委員長 2次計画は大体何年ぐらいででき上がるんですか。

宮地副会長 1年半ぐらいですか。

井出学長 2年半ぐらいです。

宮地副会長 ああ、そうですか。

■さらに全身に

広がる歯科医学教育へ

井出学長 もう一つ、東京歯科は市川総合病院を持っているということが強みだと言えます。国家試験でもこの頃、心電図やいろいろな薬の問題など、全身との関連が問題として多く出題されているため、市川総合病院の先生も非常に熱心に教育に参加してくれるようになったのです。

臼田委員長 かねてから市川総合病院というものの存在は大きなところで、これから先、全身疾患との関連を考えると非常に重要な拠点でもあるし、それをどのように生かしていくかというのも重要な課題になると思いますが。

井出学長 そうですね。市川総合病院は診療だけでなく、非常に大切な教育機関でもあると考えております。

臼田委員長 それに伴って、今後の学生というか歯科教育というのも変わってくると思うんですけど。

浮地副会長 私なんかは特に東京の郊外でベッドタウンですから、しかもだんだん高齢社会になってきて、来る患者さん、来る患者さんがやっぱり何かしらの疾病を持って来るんですね。そういった中で、やっぱり東京歯科大学とい

うのは昔から市川総合病院で研修したり何かしているところがあるので、全身疾患と歯科とのかかわり合いというのは割合に古い時代から私たちは意識させられてきた状態なんですね。ですから、今後さらにそういったところがやっぱり必要になっていくんじゃないかなということは重々わかるんですね。そういったところをやっぱり充実させていただいてもらおうと思います。

井出学長 市川総合病院には、オーラルメディスン・口腔外科や口腔がんセンターもあり、歯科と医科との連携をスムーズにとり診療していますので、今後もますます市川総合病院の医師と共に、医学歯学水準の向上を図っていきたいと思います。

臼田委員長 大学としてそういったところも考えて、これからさらに進歩していき、同窓としては楽しみにしているところです。

■研修医教育について

財部副会長 研修医のことなんですけども、研修医がほかの大学卒業生が結構来てますね。そうすると、教育の差が恐らくあると思うんですけど、その辺のことは配慮されているんですか。

井出学長 学校によってはほとんど患者さんを診たこともないし、



症例も診ないという研修医が他大学から来るため、研修初期には差がでることもあります。熱心に研修を行う中で差が縮まっていくものだと考えています。ある歯科大学の先生に、東京歯科からは研修に一人も来ない、といつも言われます。本学の人は内弁慶なのか、みな外へ行かないのですよ。でも、このごろ国立病院や他大学の医学部へ行くようになったので、他大学から研修医が来るようになりました。他から来ると、自分たちが今まで受けていた研修とは全然違うと言ってくれています。逆にそういう人たちはまた熱心に勉強するので、うちを卒業した研修医にも刺激にはなりますね。

財部副会長 市川総合病院がたしか25年度の研修医が7人いて、そのうち4人が他校だったと思うんですけども。となると、受け入れ側も結構大変なのかなというふうに思います。

井出学長 でも、それはそれで刺激になるから宜しいのではないのでしょうか。非常に熱心に研修していますし。

■ 同窓会との連携

臼田委員長 先ほど井出学長からお話が出て、今後大学と同窓会の連携をどのようにしていったらいいのかという話題を移してゆきたいと思います。

財部副会長 先ほど学長から連携の話をしていただいたんですけども、学長は全国を回っていただいて、同窓会のあり方というのが見えてらっしゃるんじゃないかと思っています。大学からの要望としまし

て今後同窓会のあり方ですか、どうあってほしいか、あるいは同窓会に対して期待するようなことがありましたら、その辺のところを教えてくださいたいと思います。

井出学長 同窓会の重要性は卒業生にきちんと言わなくてはいけないと思っています。地方に帰ったときに、同窓の先生方から、しっかりと指導をして頂きたいと思っています。礼儀作法ではないけれど、こういうところに行ってきたんと挨拶して、歯科医師とはこうあるべきですよ、というようなことを丁寧に、特に地方では教えてもらえるといいかなというふうに思います。

つい先日、卒業生が開業をしたと言って、我が家にやって来ました。話をする中で「歯科医師会に入りなさい」と言ったら、「いや、そのうち入ります」と言うので、「いや、今入りなさい」と言ったのです。それから、県の同窓会には必ず来なさいとも言いました。なぜ入らなくてはいけないのかということが、よく認識ができてないのです。行政は力がない組織を相手にしないのは決まっています。同窓会という組織も、歯科医師会の組織も、組織というのは大切なのだと話しました。やはり我々は組織の人だから、そういうものに入らなくてはいけないということ、意識して学生にも言うようにしています。教員の中でもそういう認識がないから、同窓会にきちんと入りなさいよと説明します。

それとは逆に、同窓会に行ったときに、温かく迎え入れ、面倒をみてあげ、丁寧にいろいろな事を

教えてくれるような環境を作りたいと思います。特に実家が歯科ではない人もいますから、温かく迎えてもらえると、ああ同窓会っていいねというふうになると思います。同窓会の先生には、礼儀作法ではないけれど、歯科医師の作法を教えてくださいたいと思っています。

宮地副会長 大学との連携に関してですが、最近は河田先生がずっと同窓会にいて非常に大学の医局とのパイプができ、それで今度は矢島（安朝）病院長がすごく理解があって、教室の若手に対して協力しようということを一言言ってくれているので、非常に味方になってくれて、現場ではものすごく動きやすくなっているんで、これでまた佐藤学生部長が入ってきたのもっとますます、そういう面ではいい方向に行くんじゃないかなと思って期待しています。現場で動いている人は目に見えて風通しがよくなったと言っていますので、学長のほうからもお礼を言っておいていただけるとありがたいなと（笑）。

井出学長 矢崎先生が会長になり、本格的に大学との関係をしっかりと築こうと動いてくださっています。同窓会との関係がきちんとしていないと大学は成り立たないと、大学の先生方も次第に理解してくれていると思います。

■ これからの

大学との連携での期待

臼田委員長 一旦出てしまっただと縁遠くなったところで自分が臨床をやって、あるいはそういう学術に参加して、疑問を持ったと

ころでまた大学にもどり、専門医を、あるいは認定医を取れるようなシステムを、その辺を広く紹介して、割と自由に交流ができるんだよというところがあれば同窓会としてもメリットがあるし、大学の医局員としてもメリットがあるように感じているんですが。

井出学長 いま先生がおっしゃったとおりです。大学としては、一般専修科生という制度を設けています。解剖はかなりそれを宣伝しているので、毎年研究生が入ってきています。3カ月のコースで10万円ですが、希望によりIDカードが渡されるため、図書館の利用も出来ますし、授業の聴講も可能です。そういう研修制度があることが知られていないので、同窓会報に載せていただくと、一度も大学に来なかった人が卒業後また学校に来やすくなるのではないかと思います。

財部副会長 システムとして周知できればいいですね。臨床の各医局でもその制度が一応現在はあるわけですからね。

宮地副会長 講座単位のもの、もう一つは臨床家としては、外に出た人がもう一度大学に入りたいと考えるのは、講座を超えた何か歯科医として、総合的な能力が身につくようなシステムができればまた大学に入ってきてやすいのではないかと思います。

井出学長 現時点では、そういうものを教えるようなカリキュラムが組めていません。海外の多くの大学はそういうのを持っています。

■ 同窓からの寄付協力の今後

臼田委員長 さて大学と同窓会の連携による施設というと血協記念ホールですが、多くの同窓から寄付の協力をいただき、3月31日をもって終了しました。

矢崎会長 血協記念ホールというすごい大きなアドバルーンがあって、学校からいけばもう少しということでしょうけど、各支部も大変頑張って寄付をして戴いております。そこで、ここで一つ済んだとなると、やっぱり新たな目標をちょっと設定しないとなかなか、ただお願いしますと言っても言葉だけで終わっちゃうような気がするんで。まあ大学としては、どういう形で目標というか。

井出学長 海外の学校では年中寄付を募っています。日本人はなかなか寄付をするという感覚がないですよね。私も自分の高校に寄付をしています、やはり創立何周年だとか、母校の何かを作るなどの時でないとは集まらないですよ。同窓の先生方には血協記念ホールの寄付をしていただき感謝しております。今度は西棟建設の2次計画のために、寄付を集めていただければありがたいと思います。いま設計段階ですが、西棟の1階は100人位の懇親会やパーティができる綺麗な部屋をつくろうと思っています。

臼田委員長 そうですね。例えば、それも一つの目玉となると思いますが。それから先ほど言われたように、講座に残った人は大学とのコミュニケーションがとれますが、さっき言われた、半分ぐらいの全く関係なく出てしまった人はなかなか大学に戻りにくいというか、大学の建物自体にも入りに

くいと聞きます。そうすると、母校愛とかそういったものにもつながりにくいと思います。いかに施設に入って、例えば図書館ですよ。図書館はこういった形で自由に使えるんだというような、大学には残らなかった人でも、大学に入って気軽に医局員としゃべれるというか、そういったものが打ち出していければ大学との関係がもっと密になってくると、ある意味では10年先、20年先のビジョンであって、寄附もここまでやってくれる大学であればというような下地づくりというのは必要じゃないかなと私は思っているんですけども。

その目玉としては、いま先生が言われたような、いわゆるスペースができるということは非常にいい目玉だと思うんですが。

井出学長 同窓交流室みたいな。

臼田委員長 交流室（笑）。よく地方から来て大学を見るんですけど、中に入りづらい。敷居が高くて、入っても誰も知らないし、しゃべることもできないし。例えば家族と来ても、私はここで勉強したんだって、中に入って案内しづらいというような声をよく聞きます、もしそういう敷居が少しでも低くなれば大学との交流も、また、それがきっかけで大学に戻りたいということも起きてくるん



じゃないかと思っていました。そういうスペースができるということで正直言って驚いたんですが、そういった場所はすごく必要だと思うんですよ。

井出学長 千葉で卒業した人がもう50歳を過ぎる年齢になっていますが、自分の学校はもうないんだと、言われました。自分が習った部屋はまだ自分で行けるけれども、水道橋は全然別のものみたいになってしまっているから、やはり行きにくいと言ってます。

臼田委員長 そうですね。

井出学長 新しい建物で、どこから入っていいのかもわからないでしょうし。

臼田委員長 ちょうど今年の卒業生が言っていました。「こっちで卒業式をやったんで、何か卒業した気分じゃないんだよね」と、まあそうなのかなと。

井出学長 自分の学校がなくなったみたいな感覚になっているのだと思います。

矢崎会長 既に同窓が6割近くは千葉の卒業生になりますからね、同窓生の。

臼田委員長 その辺も含めて稲毛

の卒業生がこれから同窓会のメンバーになってくると思うんです、会報誌でも「いなげ」というタイトルでもっとフューチャーしていきたいと思っています。

井出学長 でも、卒業した人が地方に戻ると、千葉へは出にくいのですよ。水道橋なら交通の便がよく来やすいので、そういう意味で、もう一回大学を見てほしいと思っています。

■ 同窓会創立120周年記念事業

矢崎会長 一つ最後としてですけど、来年、同窓会が120年ということで、ある程度の会をやるかと思ってるんですけど、大学としてはその同窓会の120年ということに対しての、こういうことをアピールしてほしいとか、あるいは何か先生のお考えの中にございますか。

井出学長 同窓会が来年120周年を迎えるにあたり、かつて活躍した人、いま活躍している人を紹介したり、同窓会はこういうことをやっていますよというのが世間にわかれば、実績にもなり、東京歯科はやはり違うんだ、これだけ組

織がしっかりしているんだというアピールに当然なると思います。いろいろな本にも、絆が強くて同窓の面倒見がいいという東京歯科大学同窓会のことがよく書かれていますので、同窓生の活躍を積極的にアピールしていただければ大学としてもありがたいことです。

矢崎会長 本日は井出先生には大変ご多忙の中、長時間にわたり今後の大学の目指している教育や研究の方針などを具体的にお話賜わり、誠に有難うございました。同窓は東京歯科大学が力強く益々発展することを心から願っています。お身体ご自愛賜わり、更なるご活躍を期待しております。

臼田委員長 そろそろ時間となりました。

井出学長先生より今後の大学の方向性やますます発展する大学のお話をお聞きでき同窓として東京歯科大学の発展が楽しみとなりました。矢崎会長を始めご出席の先生方には長時間にわたり貴重なご意見等をいただき誠にありがとうございました。これにて終了とさせていただきます。



会務アラカルト

東歯同窓国会議員後援会発足

渉外委員会の“東歯同窓国会議員を支える会”では、多数の同窓の要望に応じて、現在国会議員としてご活躍中の衆議院議員白須賀貴樹先生、参議院議員島村 大先生の同窓後援会の立ち上げを進めています。この後援会は政治団体とはせず、同窓有志で構成される自由参加の会費無料の任意団体です。各国会議員の後援会長には、同窓会の推薦により「東歯同窓白須賀貴樹後援会」会長に元同窓会役員で前千葉県歯科医師会会長の昭和40年卒業の浅野薫之先生を、「東歯同窓島村 大後援会」会長には同窓会名誉会長の昭和25年卒業の大山萬夫先生にお願いすることになっております。選挙地域にこだわらず、これからの日本のリーダーとして、そして国民のためによりよい歯科医療への牽引者として全国レベルの同窓が応援できる後援会の構築を目指しております。今回立ち上げる後援会の趣意書ならびに入会申し込み書は、後日各同窓にお配りする予定となっておりますので、その節は、お一人でも多くの同窓のご協力をお願いいたします。

評議員選出の際の経過措置、そして評議員会のあり方について

昨年の評議員会で評議員選出の際の一県一評議員の経過措置を更に2年間延長することが決まりました。平成27年度まではこれまで通りになりますが、平成28年度にむかって理事会では評議員選出の



白須賀貴樹先生



島村 大先生

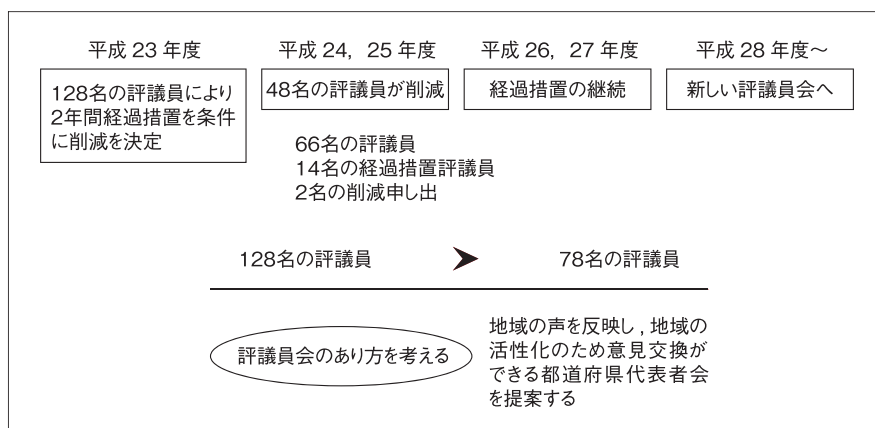
際の経過措置について、そして評議員会のあり方についての議論を始めました。本執行部には会長、副会長を中心に関係役員で編成された会務運営協議会が設けられており、本件について検討を開始し一提案を紹介するに至りました。この提案をもとに各地域支部連合会での支部長会をはじめいろいろな場で意見をいただきその後理事会として取り纏め、秋の評議員会での協議の場にあげることができればと考えております。ここではその会務運営協議会からの一提案を紹介させていただきます。

評議員会のスリム化

平成24年度評議員会では前年126名でありました評議員数が78名に削減されました。これは各地

域支部連合会会員数100名単位に評議員数を定めるようにと66人に、そして2年間の経過措置として少なくともどの県支部でも一人の評議員をだせるように14人が増員され大学支部からの2名削減のお申し出により合計78名になりました。

評議員会のスリム化はかなり以前から言われてきたことで、大山執行部の頃、同窓会を取り巻く数多くの諸問題を改善し新しい同窓会をめざす同窓改革の一環として積極的に着手されました。評議員会のスリム化の理由には経済的な問題もありましたが、情報の共有化そして支部一本部との関係の見直しがあげられます。できるだけ一人一人の会員の声や支部の事情を本部に、そして本部の情報を遅

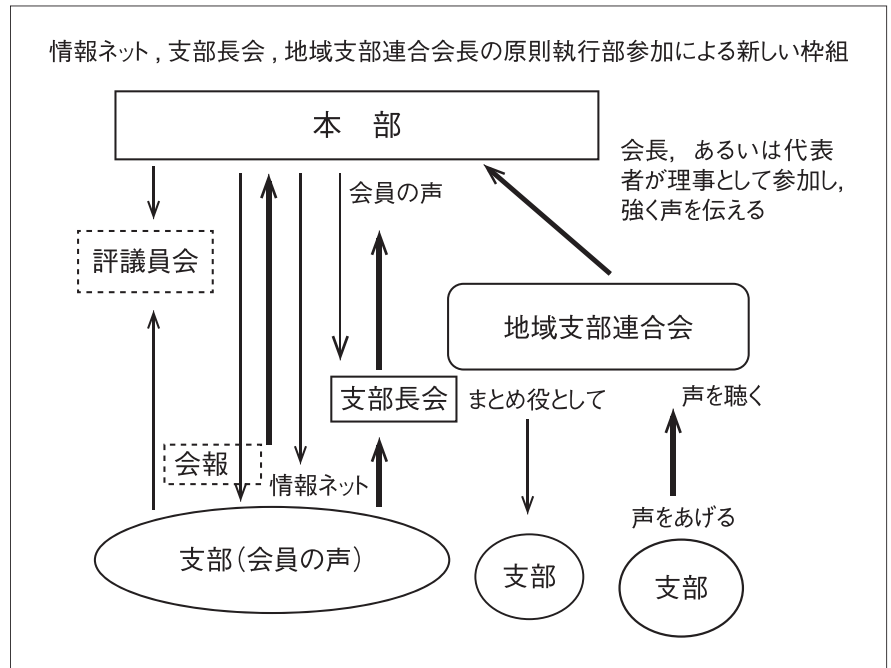


れることなく全国で共有化できることを目指すものでした。会員と本部との情報のながれは旧来同窓会報そして1年に1度の評議員会に出席した支部長が支部に戻って行っている報告に頼るところが多いようでしたが、当時の大山執行部では①情報ネットにより本部—支部長とのインターネットをつかった継続的な情報交換、そして②地域支部連合会総会ごとに事前に支部長会を開催しその地域の風を感じながらの意見の交換、さらに③地域支部連合会の会長を原則地域理事になってもらい本部執行に参加し直接地域の声をぶつけてもらい実現できるようにと始めました。

このような機構改革を進めるといことで、評議員会のスリム化を提案し承認されました。しかしながら、突然制度が変わることにより会員数の少ない地域では評議員会に出席できず、かえって情報の流れが滞ったり全国会員の一体化を妨げるような逆効果も生じる懸念があることから“一県一評議員の経過措置”が取られました。

一県一評議員の経過措置

この2年間の経過措置ですが、「その間執行部と支部および地域支部連合会は目的とする同窓会組織を整えることとし、この経過措置のあり方について、評議員会のあり方とともに、継続的に理事会および評議員会において協議することとする」とあり、単に年数が経過したら経過措置が終了するという意味ではなく、先ほどの①、②、③による支部—地域支部連合会—本部との関係づくりを推進



し、評議員会のありかたも併せて考えてゆくことが条件とされております。平成24～25年度において情報ネットは支部長とのネットの他にもクラス代表者とのネットへと範囲を広げ、会員一人一人への情報伝達まで行かないまでも全国かなり広い範囲にネットワークは広がりつつあります。また支部長会、地域支部連合会長の執行部への参加も進み、地域の意見が執行に反映できるようになりました。しかしながら、情報ネットでおくる内容、継続性、システム性にはまだ不完全さがあったり、また一方地域の機構において会員からの声が支部に上がり、その声が支部長をとおり地域支部連合会に集約して評議員会で反映できるシステムが全国の地域支部連合会で完成するにはまだ時間がかかると判断して、前執行部（第一期矢崎執行部）では平成24・25年度につづけて次の平成26・27年度についても経過措置を継続することを提案し、昨年の評議員会で承認されまし

た。

平成28年度にむかって

会務運営協議会での議論では、まずこの問題は単に経過措置だけの問題ではなく、評議員会のあるべき姿、さらには同窓会がどの方向に進んでいくのかを確認しながら考えてゆくべきとしました。同窓会としては今までの事業は継続するものとし、あらたに若手同窓との連携、支部加入促進、大学との連携、アカデミア構想、人材育成という課題が生まれてきました。重要なことは、『将来若い人が地域に帰り支部に加入した時、支部によって内容は異なるものの全国どこでも、誰でも等しく「東京歯科同窓会会員で良かった」と思える恩恵を等しく受けられるようになること』を一つの目標とし、それを実現できる評議員会を考え、その結果一つの提案にたどり着きました。

評議員会は会則によれば本会の重要事項を審議するためと定めら

れており、主に会則の変更、会長、監事の選出、予算、決算並びに資産の状況など本部の執行にかかわるものに多くの時間が費やされています。もちろん会員に託されている本部の執行の審議は最重要課題ですが、しかしもう一方で望まれていることとして、地域や支部からの意見交換ができる時間をつくること、更には評議員会の忙しい議事日程の中に漠然とふくまれるのではなく明確に目的をもった集まりとして計画的に行うことです。各支部ではそれぞれの地域性や独創性、文化性、歴史、そしてそこに集う会員により活動状況は大きく異なり120年の繁栄の歴史が刻まれてきましたが、最近の会員減少傾向と高齢化により将来への問題や悩みは深刻化しつつあります。今こそ地域の現状、支部間の意見の交換と全国での意識の一体化、さらには地域や支部活性のために本部や大学は何が協力できるかなどを話し合うことの必要性を確認しました。それこそ、この場面で得られた情報と気持ちを地域にもどり会員一人一人に伝えることが、命題である“平等に同窓会の恩恵を受けられる”組織への可能性も高まるのではと考えます。

提案

具体的には、現在の評議員会を評議員会と都道府県代表者会とにわけるとを提案します。さらに学年代表者会についても考えてみました。

評議員会

地域支部連合会会員数により選出される評議員により同窓会の重

単に経過措置の解決ということではなく、いままで評議員会に託されていた①本部執行に対する審議と②全国地域間の話し合い場としての役割を二つに分け、同窓会を新しい方向に導こうとするものである。

(開催例)

土曜日11時から1時半
ランチオンミーティング

土曜日2時から6時
6時から懇親会

都道府県
代表者会
47人

評議員会
66人

(地域で重なる場合は同一者とする)

要事項を審議する最高議決会議とする。

都道府県代表者会

同窓会員がどの地域に所属しても公平にそれぞれの地域の特性にみあった参加恩恵をうけられる組織づくりを目指し、都道府県の代表者が集まり意見交換する。

学年代表者会

クラス会の代表者が集まり、同窓会のあり方、クラス会の運営上本部との連携など意見交換する。

そして以下のようなまとめになります。

- ・評議員経過措置は平成27年で終了する。
- ・評議員会と都道府県代表者会は同日開催とする。(総会の廃止により時間的にゆとりが生まれ同時開催が可能になった)
- ・「評議員会」では決算、会則変更、役員の選出、協議など行う。
- ・「都道府県代表者会」では、大学現況や依頼なども含み、特に支部の問題やあり方など意見交換し、課題によりグループディスカッションを行えるようフレキシブルに運営できるようにす

る。

- ・「学年代表者会」においては、本部会務の課題にとらわれずクラス会の課題にまで幅をひろげ、各クラス会間の意見交換を通して充実をめざす。
- ・食事、懇親会については簡素化し、現状以上の経費がかからないようにする。

以上の変革により、長年の課題であった評議員会についても一票格差はすくなくなり、その選出方法は原則(人数割り)に則した方向になることにより公平性が担保されるようになります。二つの会にすることで評議員会での議論すべき内容が明確になり、審議し議決する評議員は少ない人数で発言の時間にも余裕がでできます。以上、同窓会創立120周年を迎える翌年になりますが、新しいスタートをきる平成28年度にむかっの新たな改革を提案させていただきますので、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

東京歯科大学同窓会各種委員会紹介

第2期矢崎執行部では委員会組織の名称とその役割等が大きく変更されました。そこで会員が各委員会の役割等について理解できるように各種委員名の報告と委員会の活動等について紹介していただきました。

(平成26年1月1日～平成27年12月31日)

同窓会創立120周年記念事業実行委員会

◎高橋利武(S42卒) ○岡野昌治(S52卒) 白田 準(S53卒) 大井 誠一(S53卒)
 山本英之(S55卒) 小林 顕(S56卒) 古澤成博(S58卒) 佐々木 葉子(S60卒)
 山口和彦(S60卒) 大塩美樹子(S61卒) 杉之内 俊郎(S61卒) 寺田 香織(S61卒)
 矢郷生和(S62卒) 山本 仁(S63卒) 福田 謙一(H2卒) 木下 英明(H19卒)

総務・厚生部総務厚生委員会 (担当常任理事：佐藤 亨・寺田仁志)

◎鳩 貝 尚 志(S54卒) ○山 滋(S54卒) 平 田 千 恵(S59卒) 川 越 元 久(H1卒)
 市 川 敬 一(H6卒)

- 総務厚生委員会は委員5名、協力委員1名で構成されています。

委員会では会員名簿、会員種別、会員緊急時代診制度を中心に検討しております。

本年12月には会員名簿の発行を予定しており、名簿記載事項等の検討を行いました。今回、正確な名簿作成のために会員名簿記載事項の調査を行うこととなりました。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

正会員の中に、高齢会員、新進会員、共済負担金免除会員等の会員種別があります。会員の皆様から、その他の会員種別についても多くのご意見が寄せられ、時代に即した会員種別の検討を行いたいと思います。

現在、会員緊急時代診制度は中止となっております。この制度については、数件の問い合わせがありました。実際には各支部や家族での対応が行われてきました。また、いろいろな問題点があることもわかってまいりました。会員緊急時代診制度を各支部、連合会、およびクラス会単位での運営の可能性について検討してまいりたいと思います。

総務・厚生部ゴルフ大会委員会 (担当常任理事：佐藤 亨・福本恵吾)

◎中野正博(S55卒) ○中川路 健司(S60卒) 堀 正 樹(S54卒) 大谷 義之(S62卒)
 山崎 眞司(H1卒) 磯野 珠 貴(H4卒) 小林 葉 穂(H14卒)

総務・厚生部ゴルフ大会運営実行委員会

市川 豊(S47卒) 高宮 紳一郎(S49卒) 原 一 雄(S59卒) 浅川 仁(S61卒)
 斉藤 浩司(S63卒) 高橋 治 好(S63卒) 齊藤 義章(H3卒) 中村 桂子(H4卒)
 大橋 渡(H7卒) 角谷 英輝(H8卒)

- 厚生部ゴルフ委員会では、毎年恒例の同窓会主催全国ゴルフ大会の企画運営を行っております。委員は7名で、大会当日には12名の大会実行委員の皆様にお手伝いをいただいておりますが、委員・実行委員のほとんどがゴルフというスポーツをこよなく愛し、競技に精通した方々です。

本年度の同窓会主催ゴルフ大会は、実に42回目の開催となります。国内の有名なプロゴルフ大会が、最近になって40回記念大会を開催しているのをみれば、その歴史の長さがお分かりになると思います。本年度の大会は、一人でも多くの会員の皆様に参加していただけるよう、初めての試みである休日(9月15日 敬老の日)開催となりました。夏の暑さも峠を越し前日も休日なので、遠方よりのご参加も可能かと思えます。また来年度は、同窓会創立120周年の記念ゴルフ大会も控えており、記念事業の一環として周年事業成功の一助となるよう準備に取り組んでいく所存です。

ゴルフは「身体健康」の為に良いといわれていますが、青空の下で気の合った仲間と一緒に一日を過ごすことは、「心の健康」のためにも良いことです。またゴルフ大会にご出席になれば、先輩・後輩・お世話になった先生など懐かしい方々と再会することもできます。同窓会コンペが、同窓会会員の世代を超えた交流の場となるよう、委員・実行委員一同頑張っています。皆様の大会へのご参加を心よりお待ちしております。

渉外部渉外委員会（担当常任理事：佐々木真澄）

◎黒田 百樹(S42卒) ○勝 俣 正 之(S55卒) 加藤 健(S46卒) 岡 野 祐 三(S48卒)
 萩 原 英 生(S48卒) 中 川 重 樹(S52卒) 西 山 潔(S57卒) 宮 吉 正 人(S60卒)
 矢 郷 生 和(S62卒) 岩 田 昌 久(S63卒)
 協力委員 五十嵐 治(S47卒) 杉 山 紀 子(S54卒) 村 山 利 之(S55卒)
 竹 内 英 樹(S59卒)

- 構成：委員10名の他協力委員4名。

活動の目的：会則施行細則(一)～(四)を尊重する。

同窓会の性質が十分に発揮され、統一的、総合的活動により会員の歯科医療環境の改善、国民のための歯科医療がさらに充実される事を目的として活動する。

具体的に

アカデミア構想に沿って、国政、行政に有用な人材を輩出し、併せて日歯、日歯連盟等で活躍する会員の育成、登用のため情報を収集する。そのため地域の抱えるテーマを双方向に共有し連携を密にする。

今期

同窓会活動と政治活動の峻別を目的として委員会内に「東歯同窓国会議員を支える会」を立ち上げた。(会長：岡野祐三氏、昭和48年卒)これを軸に任意団体としての後援会構築を目指している。

先刻御案内のように

現在、東歯同窓会には、衆議院議員白須賀貴樹氏(平成12年卒)、参議院議員島村 大氏(昭和60年卒)が活躍されている。

当面は、両氏を「支える会」を通して、政治活動を支援して行く。

是非、多くの同窓の当渉外委員会活動へのご理解、ご協力、ご支援をお願い致します。

広報部広報委員会（担当常任理事：小池 修）

◎臼 田 準(S53卒) ○福 井 雅 之(S61卒) ○山 口 雅 史(H7卒) 古 澤 成 博(S58卒)
 奥 野 圭 子(S60卒) 佐々木 葉 子(S60卒) 皆 川 雅 彦(S60卒) 渡 邊 宇 一(S63卒)
 島 田 篤(H3卒) 西 村 哲 雄(H4卒) 横 田 東 生(H10卒)
 協力委員 三 友 和 夫(S54卒)

- 広報委員会は年4回の同窓会報の発行、ホームページ、フェイスブックの管理を行い全国各会員への情報提供をそれぞれの特徴を生かした伝達手段を考慮して出来るだけ速やかに正確に伝えることを使命としています。毎月1回の委員会を開催して、投稿された原稿の編集、校正、ホームページの内容の検討また会員に見やすいレイアウトへの修正を行っています。

また本部同窓会行事、大学行事等の取材も行い原稿を作成しています。

同窓会報ではA4変形版からA4版サイズへの変更、表紙デザインもかえカラー写真が掲載できるようになりました。またグラビアページのカラー化と増ページ、内容については写真を多く文字も大きくより見やすく、興味を示していただけるようにしました。

また開封されず捨てられないように透明封筒に変更しできるだけ読んで頂けるようにしました。

紙面ではページに限りがありますので掲載できないものはホームページに掲載しています。ホームページについてはより多くの情報をリアルタイムに伝えるため頻繁に更新をしています。またより見やすくするために、

スマートフォン、タブレット PC からも見られるようにレイアウトと画面サイズの変更をしました。

また積極的にホームページや同窓会報の閲覧を促すためにフェイスブックとのコラボレーションや大学ホームページとの連携や情報ネットの協力もありかなりの閲覧者が増加しました。

多くの会員からの情報、ご意見、投稿を受け付けるためのそれぞれの MailBox も用意しました。今後も委員会に於いて協議して様々な工夫により、さらに見やすいもの活用しやすいものへと改善をしていく予定です。また来年平成27年には東京歯科大学同窓会創立120周年記念事業の一環として同窓会報の特集号2号と平成28年に記念号を予定しています。そこで同窓会の歴史を調べるため過去同窓会報のPDF化を行っています。そして将来会員の皆さんにも閲覧できるように考えています。このように歴史を調べるにあたって唯一資料として残っているのが同窓会報です。明治28年以来歯科医学叢談、歯科学報、同窓会報と形を変え現在に至っています。その歴史的資料作成に携わっている重要性について改めて考えさせられます。今後それを踏まえ委員会一同更に努力していきたいと思っています。これからも会員の皆様からのご投稿ならびにご意見を宜しくお願いします。

事業推進部社会保障制度研究委員会（担当常任理事：蛭谷剛文）

◎相庭 常人(S60卒) ○小 筆 正 弘(S60卒) 伊 井 信 助(H4卒) 小 島 將 司(H5卒)
角 谷 英 輝(H8卒)

- 今年の1月より新しい委員会として「社会保障制度研究委員会」が発足いたしました。

昨年まで、保険委員会として活動して参りました。社会保険制度は全国一律ですが、解釈はそれぞれ地域により違いがあり、それを全国規模で会員に情報を発信していくとき基本となる情報の発信しか出来ませんでした。地域の情報を集めていっても、それを生かして同窓会として日歯・厚労省に発信していく手段が少なく弱いものでした。

そこで、日歯・厚労省を動かす意見の言える同窓会にしていくためには、同窓会に日歯・厚労省に匹敵するだけのデータや知識が必要であり、それは一朝一夕では出来るものではないと考え、本委員会を立ち上げました。本委員会は、現行の社会保障制度を理解し、現行に対する意見、未来に対する展望・知識・意見を考えていく短期的目的と、将来同窓会を担うであろう人々の育成、それを教育し人材の輪を広げていく指導者・先駆者を作り上げて行く長期的目標を考えています。

外部・内部から現在社会保障制度に係わっている知識人を招き年数回のディスカッションを行い。委員・協力委員・執行部・参与など、参加希望者を募り、事前の勉強、その場の意見交換を行い、社会保障制度の仕組みや内情を知り、現行に対する意見や、将来に対する展望を持って頂き、また毎年毎年新しい会員が参加することにより知識と人の輪を広げていきたいと思っています。

委員会として、1年2年では成果は見えないかもしれませんが、将来多くの会員の先生方がその持ち場で活躍されるとき必ずしや形となり、全同窓会会員のために帰ってくると信じています。

事業推進部若手ネットワーク委員会（担当常任理事：高野博子）

◎佐々木 葉 子(S60卒) ○北 村 晃(S62卒) 黒 田 由紀子(S57卒) 岡 村 美恵子(S61卒)
土 居 知 良(H11卒) 菅 原 圭 亮(H16卒)
協力委員 小笠原 美由紀(S56卒) 鈴木 博(S56卒) 牧 野 寛(S62卒)
長 岡 未佐子(H1卒) 西 村 哲 雄(H4卒) 本 間 敬 和(H4卒)
片 山 明 彦(H11卒) 兵 藤 正 昌(H11卒)

- こんにちは！若手ネットワーク委員会です。私たちの委員会では、準会員と新進会員をはじめとする若い先生方が同窓会に要望することや期待するものの実現に向けて、その橋渡しとなればと思います。私たちの委員会は、平成24年1月より、立ち上げられた新しい委員会です。平成25年度の評議員会において、在学生を「準会員」、卒後5年以内の若い先生方を「新進会員」とする会員種別が承認され、在学生の方も同

窓会の一員となりました。

現在、委員会では、若手同窓向けに学術・保険・情報に関する無料セミナー開催、ホームページやフェイスブックでの情報伝達による若手会員への支援、同期会(クラス会)開催の支援による若手会員同士の連携がとれるようなサポートも行っております。ホームページには、Mail Box を設置し、若手同窓からの質問、診療所見学、開業、歯科医師会入会等の質問を受け付けており、いただいた質問や要望に対しては、全国に若手ネットワーク担当者をお願いし、本部・支部力を合わせて対応しております。

今年度の委員会は、愛媛、茨城、神奈川など全国の支部より、協力委員も参加していただいております、若手会員にとって同窓会がもっと身近なものに感じられるように、若い同窓を交えた新しい同窓会になれるような事業を企画していきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

◆「若手ネットワーク Mail Box」をご活用ください！

新年度に入り、診療の拠点が変わった先生も多いと思います。Mail Box を活用して様々な情報を入手してはいかがでしょうか？

全国の支部では、若い先生方からのアプローチをお待ちしております。

◆「新進会員のつどい」で、お待ちしております。

本年も、「新進会員のつどい」を、11月30日(日)水道橋校舎本館13階第1講義室において開催されることが決定いたしました。現在、卒後5年目までの先生を中心にした準備会が立ち上がり、準備を進めております。ホームページや会報から順次ご案内させていただきますので、是非、ご参加ください！

事業推進部卒後研修委員会（担当常任理事：河田英司・小林慶太）

◎加 藤 賢 祐(S62卒) ○田 口 達 夫(H8卒) 藤 関 雅 嗣(S56卒) 高 橋 潤 一(H4卒)
山 本 雅 通(H6卒)

協力委員 野 嶋 昌 彦(S57卒) 片 倉 朗(S60卒) 田 中 五 郎(S63卒)
石 崎 憲(H5卒) 堺 健太郎(H15卒)

- 今期からアカデミア構想の一部で、生涯研修の入り口に卒後研修を重点的に検討し、若手会員たちに同窓会事業を認知および参加してもらえるように委員会が設置されました。

若手支援のパートであり、特に学術的観点から卒後5年目くらいまでに焦点を当て、重点的に新進会員をサポートして今後の同窓会を担っていく人材を育成するべく事業内容を検討しております。

現在は大きく2つの小勉強会を開催しており、1つめは症例ディスカッションをふた月にまたがり検討しています。1回目は診査内容や現象に対するディスカッションを、次の会は、処置方針や予後についてのディスカッションを主体としています。

もう1つは「症例発表が出来るようになるため」にそれぞれの診査資料の採取・管理や扱い方を基本に講義・実習を主体にしてそれぞれ開催しています。

今後は、その他内容も委員会を重ね検討していきますが、現状このような形で開催しております。開催に関する情報を、同窓会HP等で案内していきますので、興味を持たれた方は是非ご参加ください。

開催日時(毎月)	開催場所	内 容
第3水曜日 19:30～	東京歯科大学 南棟6階会議室	症例ディスカッション
第4木曜日 19:30～	東京歯科大学 南棟6階会議室	参加者によるケースプレゼンテーション ディスカッション 講義・実習

事業推進部医療教養委員会（担当常任理事：河田英司・小林慶太）

◎高 柳 篤 史(H1卒) ○安 藤 友 彦(H7卒) 萩 原 俊 美(S58卒) 牧 野 寛(S62卒)
 協力委員 山 本 英 之(S55卒) 小 林 顕(S56卒) 平 井 基 之(S59卒)
 塚 田 威(H4卒)

- 医療教養委員会は、同窓会アカデミア構想の一翼として、地域保健活動展開のための情報や、教養人として身につけるべくリベラルアーツに関する内容を取り扱う委員会です。特に、東歯同窓会の最大の強みである幅広い世代での情報交流を活性化することで、その役割を果たしていきたいと考えております。

主な活動内容としては、「レジェンド・セミナー」「口腔保健オープン・フォーラム」「リベラルアーツ・リレー講座」の3つを予定しています。「レジェンド・セミナー」では、東歯OBの中でも、著名な東京歯科大学同窓の講演あるいは診療室見学を通して先達と若手の交流を計画しております。先達から若手に伝えたいこと、先達に若手が聞きたいことなどをテーマにした世代間での交流を目的としたセミナーです。また「口腔保健オープン・フォーラム」は、口腔保健のさらなるプロフェッショナルを目指す目的で、予めテーマを決めて会員参加型のオープン・フォーラムを開催し、口腔保健活動に関する活動報告とディスカッションを行う予定です。診療室内での予防管理システム、学校保健活動での展開、地域での口腔保健への取り組みなど、現場での実際の活動を通じた課題などをテーマにしたオープン・フォーラムです。そして「リベラルアーツ・リレー講座」では、歯科医のための教養講座として、多彩な分野より講師をお招きして、講演会の開催を企画してまいります。歯科医療の専門化、高度化が進む中で、専門職におけるリベラルアーツの重要性が再認識されております。そこで、同窓会においても、リベラルアーツに関する内容についても積極的に取り組んでいきたいと考えております。

本委員会のすべての企画は、多くの会員の方々の積極的な参加によって支えられます。そのため、参加費は無料～数千円程度とし、若手会員である新進会員の方々を含め、できるだけ多くの会員の方々に参加していただけるように設定する予定です。

これらの講演会等のイベントを通じて同窓間での交流がより一層活発化し、情報交流だけでなく、幅広い人的交流に繋がる有意義な企画になるように努めてまいりたいと思いますので、多くの会員の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

事業推進部臨床セミナー委員会（担当常任理事：河田英司・小林慶太）

◎木 暮 隆 司(S62卒) ○花 井 淳一郎(H4卒) 穂 坂 康 朗(S63卒) 福 田 謙 一(H2卒)
 太 田 和 秀(H3卒) 相 原 一 之(H5卒) 大 山 貴 司(H6卒) 浅 田 智 宏(H7卒)
 野 村 幸 恵(H7卒) 石 山 智香子(H9卒) 石 川 一 磨(H10卒) 鈴 木 雄 太(H11卒)
 柳 澤 光一郎(H14卒) 大 井 陽 生(H16卒) 川 西 慧(H18卒)
 協力委員 西 井 康(S61卒) 高 橋 敬 人(S62卒) 松 坂 賢 一(H2卒)
 渋谷 義 宏(H4卒) 本 間 敬 和(H4卒) 伊 藤 太 一(H6卒)
 浅 野 裕 之(H9卒) 佐 藤 留美子(H9卒) 渋谷 英 介(H9卒)
 阿 部 修(H12卒) 竹 内 史 江(H12卒) 松 岡 政 之(H13卒)
 大 田 恵(H19卒)

- これまでの学術委員会事業のセミナー部門を継承し、臨床研修セミナー委員会が発足しました。

今期より動き始めたアカデミア生涯研修の学術関連事業では、従来の学術事業である広い年代を対象とした臨床に関する講演に加え、卒後間もない若い会員を育成する研修、歯科医師として備えておきたい素質や教養も伝えていくという意図で、学術事業を整理した結果、3つの部門に分かれ活動することとなりました。

本委員会では、旧学術委員会で開催してきたTDC卒後研修セミナーを中心に事業を行います。生涯研修の中で歯科医師が知っておきたい知識、身につけておきたい技術を伝える臨床的なセミナーを主に提供致します。今年の卒後研修セミナー2014では、生涯研修のスタートとしてのベーシックセミナー、診療で大切な、義歯、

矯正、インプラント治療に関するセミナーが開催されます。明日の臨床に必ず役立つ内容を主眼としておりますので、同窓会ホームページにて詳細をご覧のうえ、同窓のご参加を心よりお待ちしております。

また、2015年のセミナー内容も、すでに企画検討しております。臨床スキルのさらなる向上を目的として、これまで実施してきたTDC卒後研修セミナーのアドバンスコースとして、ステップアップを目指した内容をイメージしております。日常臨床スキルを1歩進め、治療のバリエーションが広がる内容を開催する予定です。各診療分野のスペシャリストで構成されている、本委員会の委員27名(委員15名、協力委員12名)により企画されたセミナーを通して、最新の情報とテクニックを紹介いたします。

現在、歯科臨床に関する学術情報は、商業雑誌、勉強会や業者主催のセミナー、学会、学会論文、歯科医師会関係からも十分な学術情報が得られる状況にあると思います。

しかしながら、本委員会では他のセミナーでは得ることの出来ない、「診療スタンス」、「患者さんとながく関わるために必要なこと」、「より良い予後を見極める診断力」、「確かな技術と信頼性の向上」を、TDC卒後研修セミナーを通してお伝えすることが、歯科医師生涯研修にとって大切だと考え、セミナー事業を行っています。今後の委員会活動に、是非ともご期待ください。

敬称略 ◎印は委員長 ○印は副委員長

平成26年度 新入会員（第119回卒業生）

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
青 木 絵里香	小 倉 春 佳	小 山 侑	寺 島 達 秀	古 澤 春 佳
秋 山 友理恵	翁 長 欣 子	齋 藤 壮	寺 本 拓 央	星 野 立 樹
明 橋 冨	小 野 愛 実	坂 田 宗 昭	遠 山 厳	細 川 裕 貴
新 井 敬	小 幡 智 子	佐 竹 杏 奈	富 永 早 紀	本 田 健太郎
荒 川 雅 弘	影 下 裕 晃	佐 藤 正 敬	富 永 雄 介	増 山 奈那子
李 學 瑩	片 野 壮	鹿 野 哲 生	永 倉 遼太郎	松 田 二 葉
飯 嶋 和 斗	金 川 結紀子	島 津 有理子	中 郷 恵	松 田 祐 明
石 井 友季子	金 沢 貴 英	清 水 翔 太	永 澤 祐 麻	松 原 良 典
石 井 亮 太	金 子 純 哉	清 水 博 之	中 島 由 貴	松 村 健二郎
石 川 真 宏	金 子 真 也	勝 陽 臣	中 西 正 光	宮 本 成 美
石 田 祥之助	兼 子 ゆ り	鈴 木 誠太郎	中 野 友 徳	宗 像 花楠子
石 塚 友 則	金 城 奈 帆	砂 川 晋	中 村 ゆり子	村 上 彩 花
岩 脇 淳 志	川 上 十 和	角 野 夢 子	中 山 藍	安 岡 はるか
上 窪 祐 基	川 口 哲 司	泉 福 隼 人	名 倉 奈津子	山 倉 佑 太
上 原 秀 一	川 崎 貴 裕	田 井 誠 悟	梨 正 典	山 下 由貴子
内 倉 慶一朗	姜 東 勲	高 木 紗耶華	仁 紫 友 貴	山 本 悠
宇 野 瑤 子	鍛 代 秀 人	高 田 佳 奈	野 末 雅 子	横 見 厚 則
榎 本 奈 三	木 下 友 里	高 野 恵 実	野々村 絢 子	劉 文 蓉
大 竹 智 久	具 志 恵	高 橋 篤 史	橋 口 あやこ	脇 谷 尚 宏
大 津 雄 人	草 場 岳	高 山 紅 美	林 礼 乃	和 田 朗
大 畑 菜々子	久保寺 理 人	橘 継 国	林 卓 弥	和 田 沙也加
岡 野 千 永	黒 潮 裕 子	田 中 亜 生	伴 野 雄 大	渡 邊 豪 士
岡 野 日 奈	黒 田 祥 太	田 中 宏 佑	左 右	渡 辺 恭 子
岡 村 将 宏	小 杉 彩 歌	田 宮 資 己	平 岡 正 行	
小 川 雄 大	小 林 峻	手 島 秀	府 野 あゆみ	以上123名

理事会のうごき

第2回理事会

平成26年3月29日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 31名

議長 矢崎会長

会長挨拶

全国からお集まりいただき感謝申し上げます。国家試験は3年連続の1位ということで、大変素晴らしい結果を得ることができた。同窓や他大学関係者からも高い評価を得ているが、ひとえに学生諸君の努力と教職員の団結によるものである。ただ全国的にみると、出願者に対する合格者の割合は、かなり抑え込まれたものになっている。国の抑制策が窺えるし、今後もこの傾向が続くものと思われる。教職員の皆様には、引き続きご尽力いただきたい。

水道橋校舎南棟（旧鶴屋ビル）の6階に同窓会室が移転した。かなり広いスペースとなったので、有効に活用願いたい。

卒業生、3病院研修医修了生に対するオリエンテーションを例年通り行ったが、その際、同窓会案内等配付資料作成にあたり、担当理事、委員、事務局に大変努力をいただいた。今後、配付する場所を広げていくことで、次第に同窓会に対する関心が上向く効果が得られるものと期待している。

血協記念ホールに対する寄付は、3月末をもって終了する。今後会報等で、会員各位に御礼を申し上げる予定である。また今後の大学支援策を早急に検討することとしている。さらなる協力をお願いする。

黙 祷

群馬県支部・鈴木 勲氏はじめ8名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告ならびに承認

- 1) 平成26年2月22日から平成26年12月17日までの日程を報告。

2) 各部報告

- (1) 総務・厚生部：①支部長交代について3件報告。②支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について3件報告。③各種委員会委員について報告。④逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤会費、共済負担金納入免除願いが4件提出され、受理した旨の報告。⑥共済負担金免除願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑦総務・厚生委員会報告。⑧ゴルフ大会委員会報告。⑨母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑩情報ネットワーク推進会議報告。⑪会務運営協議会報告。⑫事業連携協議会報告。⑬東日本大震災対策部会報告。⑭同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。⑮本年度学年代表者会の計画案を報告。⑯会員種別について会計面からの試算について報告。
 - (2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について3件報告。②地域支部連合会ゴルフ大会カップ代の支出について1件報告。③平成26年度2月末現在現況報告。
 - (3) 渉外部：①渉外部委員会報告。②東歯関係日歯役員・代議員、都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会報告。
 - (4) 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。③広報6月号原稿報告。
 - (5) 事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒後研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦TDC 卒後研修セミナー2014報告。⑧学術事業交流についての協議会報告。
- 以上の会務報告について、全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事、関東・高原理事、北陸・伊藤理事より報告。

協議事項

- (1) 推薦会員退会願いについて1件承認。
- (2) 推薦会員入会願いについて1件承認。
- (3) 東日本大震災被災者に対する平成26年度会費・共済負担金免除の延長について7件承認。
- (4) 同窓会室移転の流れおよび移転費用の拠出方法について協議の結果、承認。会議室の使用規定を確認。
- (5) 参与の委嘱について推薦があり、協議の結果、承認。
- (6) ホームページ「執行部宛ご意見箱」投稿等について報告。
- (7) 評議員選出の経過措置および評議員会のあり方について、平成28年度に経過措置終了を目指して協議を進めることを提案。協議の結果、各地域支部連合会の考え方を踏まえて時間をかけて継続審議することとする。
- (8) 地域支部連合会総会開催の際、支部長会開催を依頼し、執行部からの議題を提出していきたい旨提案、承認。
- (9) 白須賀、島村両議員の後援会と同窓会の関わりについて協議。

東京歯科大学同窓会創立120周年記念事業

メインテーマ 『 医はこれ済生ひとへに仁なり 伝統そして未来への飛躍! 』

日時 平成27年11月29日(日)

記念式典・記念講演 血脇記念ホール

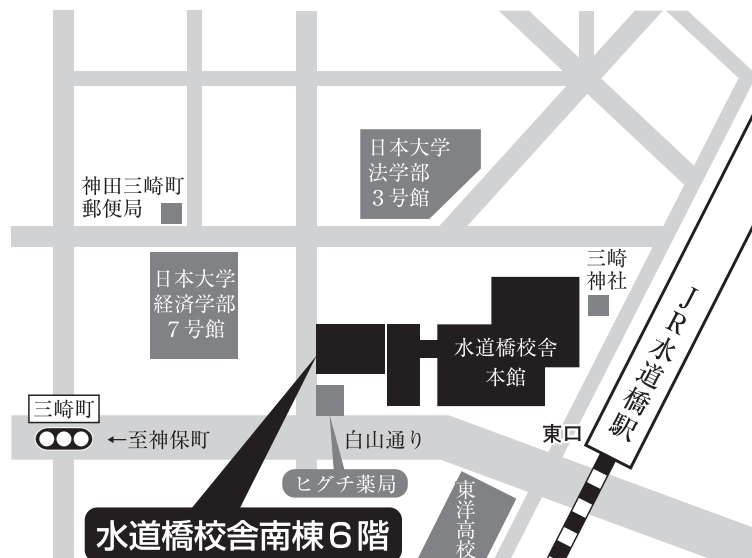
記念祝賀会 東京ドームホテル

実行委員会も立ち上がり詳細の検討が始まりました。若手委員も交え若い世代も楽しめる企画を考えています。ぜひ多くの会員の皆様のご参加を期待しています。

同窓会事務所移転のお知らせ

同窓会事務所が水道橋校舎南棟6階に移転しました。

水道橋駅東口を出て白山通りを右へ、水道橋校舎本館前を通り、ヒグチ薬局の角を右折し、水道橋校舎南棟(旧鶴屋ビル)6階、徒歩約3分です。



第42回同窓会主催全国ゴルフ大会

秋の休日・親睦ゴルフ大会にぜひご参加ください

会長 矢 崎 秀 昭

平成26年9月15日（敬老の日）に第42回同窓会主催全国ゴルフ大会が総務・厚生部ゴルフ大会委員会、埼玉県支部など皆様のご尽力で、埼玉県のおおむらさきゴルフ倶楽部で開催されることとなりました。本年のゴルフ大会は近年、特に若手の会員の皆様の要望が強かった休日での開催となりました。休日での大会の開催には多くの課題もありましたが、中野委員長はじめゴルフ委員の方々のご努力により実現することとなりました。

交通のアクセスも良く、武蔵野の広大な自然の中に広がる27ホール美しいゴルフ場で、秋の休日の一日を同窓の方々と、楽しく過ごして戴けることと

思います。医局や研究室など大学在勤の先生方にも、今回は参加戴けるものが多いに期待しております。

毎回参加戴いておられる腕に覚えのあるシニアの方々、ゴルフを始められたばかりの若手の会員の方、最近参加される方が多くなっている女性の皆様など、より多くの会員の皆様のご参加を是非とも宜しくお願い申し上げます。

お一人でも、また各支部やクラス会、クラブのOB会、各講座の会などお誘い合わせて是非ご参加賜りますようお願い申し上げます。



キ リ ト リ 線

第42回 同窓会主催全国ゴルフ大会申込書

所属支部名 _____ 氏 名 _____ 卒業年度 _____

住 所 〒 _____ TEL (_____) _____

生年月日 _____ ハンディキャップ
(プライベートでも可) _____

通信欄

参加費7,000円を添えて申し込みます。

第42回同窓会主催全国ゴルフ大会ご案内

第42回同窓会主催全国ゴルフ大会は、埼玉県おおむらさきゴルフ倶楽部にて開催いたします。

インターからも近く、丘陵地帯ですが広い27ホールのコース。

池やバンカーが効果的に配置されながらも、フェアウェーが広いので、伸び伸びとプレーできます。

今回は祝日の開催とさせていただきました。木曜休診ではない会員の先生も奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

開催日時 平成26年9月15日 月曜日（敬老の日）

会場 おおむらさきゴルフ倶楽部

〒355-0804

埼玉県比企郡滑川町中尾1185

TEL 0493-56-5555

FAX 0493-56-5656

交通 車 利用

東京方面から

東松山 I. C. から約 9 km（約10分）

東松山 I. C.（出口）を右に進んで

滑川中学校（北）交差点を左折

群馬、長野、新潟方面から

嵐山小川 I. C. から5.5km（約7分）

嵐山小川 I. C.（出口）右折して

花見台工業団地を直進

電車利用

東武東上線森林公園駅北口から

タクシーで約7分（約1,700円）

競技方法 18ホールストロークプレイ

（ダブルペリア方式）

参加費 7,000円（含パーティー費、賞品代）

その他は個人払いとします。

参加人数 140名限定（先着順）

申込期間 平成26年7月15日まで

申込先 東京歯科大学同窓会ゴルフ大会係宛
〒101-0061

東京都千代田区三崎町2-9-18

TEL 03-5275-1761

申込方法 参加申込書に所定事項記入の上、会費7,000円を添えて、現金書留封筒でお申し込み下さい。

クラス会単位その他のコンペ同時開催による一括申し込みの場合も申し込み時に必ず全員の参加申込書と会費を添えて下さい。

なお、電話での受付はいたしません。

追記 本大会についての詳細は大会実施要項として、参加申込み手続き終了の方に直接お送りします。その他ご質問お問い合わせ等は下記委員をお願いいたします。

中野正博 TEL 03-3862-6480

◎宿泊

1) ホテルヘリテイジ

ゴルフ場までお車で約10分

TEL 048-536-1212

2) ホテル紫雲閣

ゴルフ場までお車で約15分

TEL 0493-23-5151

3) 東松山第一ホテル

ゴルフ場までお車で約15分

TEL 0493-25-1515

4) キングアンバサダーホテル熊谷

ゴルフ場までお車で約25分

TEL 048-501-0077

優待等はありません。

予約、お問い合わせは各自でお願いします。

東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と 同窓会役員との懇談会

第174回日歯代議員会1日目の3月13日(木)の午後6時30分より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント2階「波光」において東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会が開催されました。

出席者は，東歯関係の日歯役員4名，日歯代議員18名，都道府県歯会長4名，同窓会役員19名，渉外委員2名，そしてご来賓として母校の金子 譲理事長，井出吉信学長，衆議院議員白須賀貴樹先生，参議院議員島村 大先生がご列席くださいました。また今回より，日歯役員として佐藤 徹日歯地域保健担当常務理事（昭和62院修了）が参加されることになりました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で，宮地建夫副会長が開会の辞を述べ，まず白須賀貴樹衆議院議員より「歯科界は，今後の医療・介護制度改革にむけて仲間作りをする必要がある」との挨拶を頂戴致しました。丁度，日歯の大久保満男会長，村上恵一専務理事，村岡宣明常務理事と，日歯連盟の高木幹正会長と峰 正博理事長がお見えになり，大久保満男日歯会長と，高木幹正日歯連盟会長より，会務への協力のお礼と「今後組織力を低下させないためにも，

各歯科大学と同窓会の協力が重要である」とのご挨拶を頂戴しました。

この後，矢崎秀昭会長より，今回より参加された佐藤 徹日歯常務理事の紹介と，「今後，日歯，同窓会ともに若手会員対策が重要である。同窓が協力して，東歯の存在を示してほしい」との挨拶があった。

つづいてご来賓よりご挨拶を頂戴いたしました。

まず金子 譲理事長より，「移転2期工事が始まった，今後3年かけて移転工事が完了する。歯科界の社会的地位を向上する為には，政治への影響力が重要で，同窓の国会議員には頑張って貰いたい」，つぎに，井出吉信学長より，「時期的に移転工事の費用が高騰している。現状では入学志願者数は好調であるが，国試の合格率が重要である。大学では，診療能力が向上するように計画性をもって努力している。今後，同窓の尚一層の協力をお願いしたい。」とのご挨拶を頂戴しました。

つづいて出席者の紹介にうつり，その中で，日歯常務理事の富山雅史先生（昭和57年卒），佐藤徹先生，中島信也先生（昭和59年卒）から，それぞれの会務の現状に関しての紹介と，ご挨拶を頂き

ました。

この後懇談会は，東京都歯科医師会会長の高橋哲夫日歯代議員の座長のもと進行され，鹿児島県歯科医師会会長の森原久樹日歯代議員より第174回日歯代議員会報告を，日歯連盟副会長で秋田県歯科医師会会長の藤原元幸日歯代議員より日歯連盟報告を頂戴し，つづいて同窓会の会務報告を高橋義一専務理事が行いました。

この後，「今後，どのようにしたら日歯において同窓会の存在を示せるか」という議題で協議を行い，同窓の結束と後輩を育成すること，若手同窓の日歯での組織率を上げること，地元対応と他校との交流を深めること，率先して活発な発言ができる若手同窓を育てること，国政に同窓が立候補した時には応援して結束を強化すること等，各代議員より貴重な意見を頂戴致しました。

そして最後に，玉井達人副会長が閉会の辞を述べました。

会場を「春琴」に移した懇親会では，藤原元幸副会長が開会の挨拶を述べ，大山萬夫名誉会長・顧問の乾杯の発声で，終始和やかな雰囲気の中進行しました。最後に鳴神保雄顧問の閉会の辞で終了しました。

事業推進部

●卒後研修委員会●

二校会講演会のお知らせ

日本大学歯学部同窓会との共催による「二校会講演会」が、9月23日（火・秋分の日）に血脇記念ホールにて開催されます。

日本大学歯学部同窓会と本学同窓会は、学術委員会の連携として平成23年より両校の若手同窓を対象とした、「若手支援セミナー」を開催して参りました。

今年度からは、「二校会講演会」として全国の歯科大学同窓会にご案内し、出身校にかかわらず卒後10年以下は受講料無料の講演会を開催する運びとなりました。

今回は、臨床で診断と処置に迷うことがある疼痛、診療を行う上で避けなければならない医療事故、臨床医として持っていたい心がけについて下記の3講師からご講演いただきます。

若手の同窓が、患者さんの信頼を得て臨床に長く携わる上で、大切なことを伝える事が出来ればと考えております。

同窓におかれましては、若手はもちろんのことベテランの同窓からのご参加もお待ちしております。また、診療室にご勤務されている先生方にもご案内いただきますよう、ご高配のうえご協力の程よろしくお願いいたします。

なお、受講に当たっては出来るだけ事前登録をお願いします。下記申込み用紙にご記入の上、事務局宛にFAXにてお送りください。

より多くのおみなさまのご参加をお待ちしております。

（事業推進部 担当常任理事 小林慶太）

講師・講演題（講演順）

「顎顔面領域の疼痛とその対応」

今村佳樹（日本大学歯学部附属歯科病院副院長，診断部長，口腔診断科長，
ペインクリニック科長）

1981年 九州歯科大学卒業（大学29期）

1985年 九州歯科大学大学院修了

1998年 九州歯科大学助教授（歯科麻酔学講座）

2003年 日本大学歯学部教授（口腔診断学）



「歯科における医療事故の現状」

一戸達也（東京歯科大学・副学長）

1981年 東京歯科大学卒業

1985年 東京歯科大学大学院修了

2002年 東京歯科大学教授（歯科麻酔学講座）

2010年 東京歯科大学水道橋病院長

2013年 東京歯科大学副学長



「患者さんの願いは「歯を救って長持ちさせること」」

黒田昌彦（東京都千代田区・開業）

1967年 東京歯科大学卒業

1971年 東京歯科大学大学院修了（歯科補綴学）

1976年 東京都千代田区開業

1991年 スタディーグループ「救歯会」主宰



日時：9月23日（火・秋分の日）

場所：血協記念ホール（東京歯科大学水道橋校舎新館2・3F）

タイムスケジュール（予定）

10：00～ 開会・挨拶

10：15～ 講演「顎顔面領域の疼痛とその対応」

今村佳樹（日本大学歯学部 口腔診断学 教授）

11：30～ 質 疑

11：45～ 昼 食

12：45～ 講演「歯科における医療事故の現状」

一戸達也（東京歯科大学 副学長）

14：00～ 質 疑

14：15～ 休 憩

14：30～ 講演「患者さんの願いは「歯を救って長持ちさせること」」

黒田昌彦（東京都千代田区 開業）

16：30～ 質 疑

17：00 閉 会

（閉会後講師を交えて懇親会開催予定）

二校会講演会（9/23 10：00～17：00）Fax 事前登録用紙

（定員300名先着順）

フリガナ		
御名前	大学	年卒
御住所（自宅）〒		
電話番号	Fax	
御住所（勤務先）〒		
電話番号	Fax	
過去の本セミナー受講経験	初めて ・ 経験あり	

※卒後11年以上は、受講料¥5,000となります。ご登録の上、当日受付にてお支払いください。

●臨床セミナー委員会●

「どうして定期健診を受診してくれないの？」

～行動科学を知ろう～

「なぜブラッシングが定着しないのか？」

「なぜ定期健診に応じてくれないのか？」

患者さんが口への関心が低いから仕方ないとあきらめていませんか？
う蝕や歯周疾患は生活習慣病であり、生活習慣へのアプローチも不可欠です。
ブラッシング指導、治療内容の説明に役立つコツを学び、
臨床の様々な悩みを行動科学でひもといてみませんか！

行動科学を臨床応用している衛生士の発表もあり、歯科医師、
歯科衛生士、コ・デンタルスタッフにもおすすめです！

日 程 7月27日（日） 13：30～16：30

講 師 杉原 直樹（東歯大・衛生）

高柳 篤史（埼玉県・開業）

受講料 3,000 円



困った…！ 義歯の悩み解消します

～あんなこと、こんなこと…実際の症例を通して考えていきましょう～

日 程 9月21日（日） 9：30～16：30 水道橋校舎

講 師 櫻井 薫（東歯大・有床補綴）

上田 貴之（東歯大・有床補綴）

石崎 憲（東歯大・有床補綴）

○講演内容

- ・有床義歯トラブルへの対処法
- ・原因と具体的な解決法
- ・種々な症例での義歯調整の実際
- ・有床義歯補綴の基本手技の再確認
- ・これからの有床義歯補綴の方向性

※相談症例がありましたら、お申し出下さい。セミナーの中で検討することもできます。

受講料 30,000 円／20,000 円（前年度同窓会費納入者受講料）



▲新しい義歯を保険で入れて欲しいと来院

臨床実技セミナー

MTM 新時代

～歯科矯正用アンカースクリューの有効性を検証する～

歯科用アンカースクリューの正しい使い方を基礎から学べる良いチャンスです！

最新の MTM に触れて臨床の幅を広げませんか？

日 程 10月12日（日） 9：00～16：30 水道橋校舎

講 師 末石 研二（東歯大・矯正）

高木多加志（東歯大・口外）

西井 康（東歯大・矯正）

○講演内容

- ・MTM の基本理念
- ・歯科矯正用アンカースクリューの特徴
- ・埋入時の診断と手技
- ・歯科矯正用アンカースクリューの MTM への臨床応用例

○実習内容

- ・ワイヤーベンディング実習
- ・歯科矯正用アンカースクリュー埋入実習

受講料 60,000 円／50,000 円（前年度同窓会費納入者受講料）

（実習費 各 30,000 円込み）

※別途プライヤーの準備、ご用意が必要となります。



お申し込み方法：同窓会ホームページ（<http://www.tdc-alumni.jp>）より申込書をダウンロードし、ご記入の上同窓会事務局へ郵送、もしくは FAX にてお申し込みください。

東京歯科大学同窓会 Fax 03 (3264) 4859

詳細は同窓会ホームページ学術部のコーナーをご参照ください…………… <http://www.tdc-alumni.jp>

TDC 卒後研修セミナー 2014 特別企画 詳報

インプラントセミナー各回テーマ内容決定!!

ー臨床から基礎へ，基礎から臨床へー

「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant

科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために」 4日間コース

6月28日(土) ～井上 孝，武田孝之，佐藤憂子，二階堂雅彦，藤関雅嗣，矢島安朝～

- ・ コミュニケーションスキルの稚拙さが医療訴訟へとつながる
ー患者の満足感が訴訟を起こすかどうかの最大の決定要因ー
- ・ 骨造成術と軟組織のマネージメントを基礎と臨床から検証する
ーコンセンサスの取られている治療法といまだ実験段階の方法を区別するー

6月29日(日) ～阿部伸一，井上 孝，佐々木研一，平田創一郎，福田謙一，矢島安朝～

- ・ インプラント治療の医療安全を基礎と臨床から検証する
ー医療事故の病態と対応，社会的評価と医療安全文化ー

7月26日(土) ～飯島俊一，木津康博，椎貝達夫，関根秀志，西川慶一，矢島安朝，吉成正雄～

- ・ ジルコニアの最新情報を基礎と臨床から検証する
ージルコニアを用いたインプラント治療の全容と将来展望ー
- ・ ガイデッドサージェリーの確実性を基礎と臨床から検証する
ー誤差とエラー，そしてその確実性は？ー

7月27日(日) ～伊藤太一，石原和幸，小宮山彌太郎，二階堂雅彦，松井孝道，矢島安朝～

- ・ インプラント周囲炎のメカニズムを基礎と臨床から検証する
ーインプラント周囲炎発症のメカニズムを理解することで最新の対応法を身につけるー

各日程ともにテーマを限定し，
スペシャリストによる新しいかたちのインプラントセミナーを企画しました。
「臨床 VS 基礎」の大討論会に参加され，是非ご堪能下さい。

各日程講演時間：(土) 9：30～18：00・(日) 9：00～17：30

受講料：4日間コース 100,000円

60,000円 (前年度同窓会費納入者受講料)

各日単発受講が可能です

1日受講料 30,000円

20,000円 (前年度同窓会費納入者受講料)

受講にあたり，TDC 卒後研修セミナープログラム，または同窓会ホームページで確認下さい。

⇒ <http://www.tdc-alumni.jp>

●卒研レポート2014●

臨床で身につけておきたい「知識」・「技術」・「観点」

No.1 臨床実技セミナー「極めよう!! 外科小手術と顎顔面の解剖学」

4月20日(日)水道橋校舎新館8階にて、TDC 卒後研修セミナー「極めよう!! 外科小手術と顎顔面の解剖学」が行われました。



卒後間もない若手先生からベテランの先生方まで約40名の受講生がありました。



講演に先立って2014年度卒後研修セミナー開講式が行われ、矢崎同窓会長から挨拶がありました。



東京歯科大学口腔外科学講座 主任教授 柴原孝彦先生より、日常臨床の口腔外科小手術から智歯抜歯のコツと注意点と消炎手術について、講演いただきました。



東京歯科大学解剖学講座 教授 阿部伸一先生より外科小手術の臨床病態の根拠を解剖学の立場から講演いただきました。



解剖標本と CT 画像の比較

午後からは2班に分かれ、解剖学実習室にて講義で見た人体標本観察とマネキンを用いた水平埋伏歯抜歯と膿瘍切開の実習を行いました。



新しい解剖学実習室にて、上條先生時代からの貴重な標本に触れました。

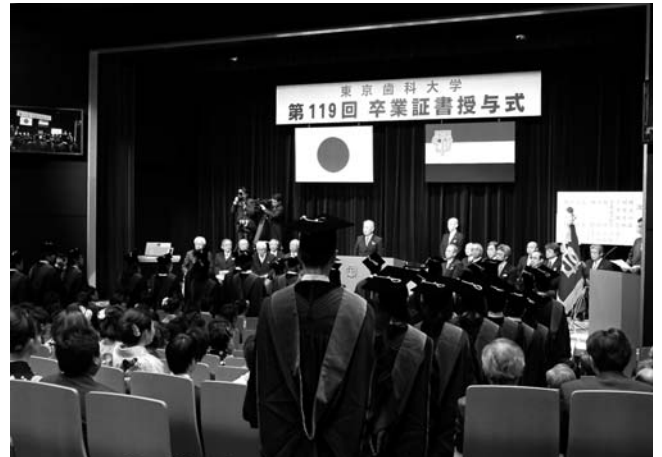


実習ののち柴原先生・阿部先生を交えディスカッションが行われ、最後にサーティフィケーションの授与が行われました。

(取材・広報部 横田東生)

母 校 だ よ り

第119回 卒業証書授与式



去る平成26年3月15日(土)午前10時から、水道橋校舎新血協記念ホールに於いて第119回卒業証書授与式が行われた。今回も昨年に引き続き、卒業式に先立ち大学院の修了式が執り行われ、田崎雅和大学院研究科長より今年度修了の33名の大学院生に修了証が授与された。

引き続いて司会の佐藤 亨学生部長の開式の辞に続き、参列者一同の「君が代」の斉唱で、新血協記念ホール初の卒業式が開式された。

まず石井拓男副学長から「現在、本学に在籍する学生は814名であり、本日卒業証書を授与される者はその内の123名、大学設置以来の卒業生を合わせると8,729名、専門学校設置以来の卒業生を合わせると14,742名で、高山歯科医学院創立以来の通算卒業生数は15,033名になる。」旨の学事報告の後、河田英司教務部長の呼名により卒業生一人一人が起立し、

井出吉信学長から卒業証書が授与された。今年も舞台脇には大型モニターが設置され、卒業生の表情が会場および教室に流され、各自の緊張の面持ちから笑顔まで、手に取るように分かるように配慮されていた。続く褒賞の授与では、学長賞、血協賞、井上 裕賞、精勤賞、卒業論文賞が授与された(受賞者は文末に記載)。

続いて井出学長は、「皆さんは本学において最先端の歯科医学、歯科医療の知識、技術を学び、歯科医療人として必要なコミュニケーション能力を養い数々の難関試験を突破してきたことは、これからの歯科医師人生の大きな自信になることでしょう。本学は創立120周年を機に、水道橋の新装校舎でさらなる飛躍をするために、新たなスタートをさせました。諸君たちがこの新血協記念ホールで行われる最初の記念すべき卒業生です。本学は、臨床研修修了後における大学院での研究体制や、各

講座での研修制度も充実しています。また、国内外の大学や研究機関との連携の強化も進めており、一昨年には本学とゆかりの深い慶應義塾大学医学部との間で連携協定を提携すると共に、今月新たにアメリカのタフツ大学との姉妹校の協定を結びました。皆さんは、この校舎を生涯教育の場として大いに活用し、今後も研鑽に励み同窓としての誇りを持って世界に羽ばたいて行ってもらいたい。そして、後輩の目標となるような人望と実力のある歯科医師として活躍してもらいたい。」旨、告示を述べられた。

続いての祝辞で金子 譲理事長は、「皆さんが入学した時、学生生活を有意義に過ごしていただきたいと挨拶で述べました。その有意義ということをどのように自分で見つけられるかということです。今日皆さんの顔を見ると、あの時とは顔の様相が一変しています。その間、学業にスポーツに文



化活動に大いに学生生活を楽しんだのだと思います。本学120年以上の歴史の中で、明治になって西洋文化を取り入れて近代化をしようとした時に、歯科医学の教育をいち早くとりいれたのが我々の先達でした。その時代、大学はほとんどなく明治36年に専門学校になりましたが、明治政府は大学に準じた設備を作れと厳しい条件を付けていました。専門学校でも学校の目的がありましたが、その中で必ず挙がるのが「人格の涵養」です。これは開国をして西洋文化に追いつこうという中で、国際性を持ったジェントルマンを作りたかった。このような背景から血脇先生の「歯科医師たる前に人間たれ」が出てきたのだと思います。今、理化学研究所の論文につ

いてコピーペーストで作成したことが問題になっていますが、他人の書いたものをそのまま使うことがダメなのは、論文のイロハです。ここで大事なのが、過去の業績や先輩たちへのリスペクトであります。これと一緒に、皆さんもこれからの人生で患者さんや一緒に働く人たちに対して、このリスペクトが大切であり、これが教養ということに繋がっていくのだと思います。」と述べられた。

続いて矢崎秀昭同窓会長が登壇され、「皆さんは千葉校舎で友人と学んだ多くの思い出があると思います。しかしながら、日本最古の歯科大学として歯科界をリードしてきた我が校は、この水道橋の地でも世界に誇る業績を上げてきており、今後はこの母校を生涯に

わたる心のよりどころとして、世界に向かって活躍してもらいたいと思います。本校同窓会は、一般の同窓会と違って、卒業生は生涯にわたって歯科医療や歯科医学の道を歩むことになります。血脇守之助先生は、「同窓はともに助け合い高めあう」という血脇イズムを軸として同窓会を設立しています。現在、全国に9,000を超える同窓会会員がいます。そして、全国のどこの地域でも新たに同窓会会員となった皆さんを心から歓迎し、その地域の同窓会支部に入会することを心待ちにしております。全国同窓会各支部においては、主として母校の先生をお招きしての講演会、懇親会や家族を交えた各種リクリエーションなど活動を行っています。卒後5年間程

度は、大学や研修期間などで将来に向かっての研修を行っていることが多いのですが、同窓会ではこの期間、同窓会の新進会員として本部同窓会での若手研修会や症例検討会など、直接卒業生の皆さんと交流を深める多彩な企画をしております。現在、同窓会アカデミア構想の元、技術的なことから社会の医療再生のことまで、社会的知識など一流の歯科医師となるための手助けを目指しています。超高齢社会において口腔機能を充実させることにより、健康長寿への貢献が社会的に必要となっています。卒業生の皆さんの意見を同窓会にお寄せいただき、今後の会の

運営に生かしたいと思います。皆さんが東京歯科大学卒業生の誇りを持って素晴らしい活躍をすることを期待しています。」と祝辞を述べられた。

続いて在校生を代表して岡澤

亮平君（5年生）から送辞、卒業生を代表して大津雄人君が答辞を述べた後、出席者全員で校歌を高らかに斉唱し、厳粛かつ感動的な卒業証書授与式が閉会となった。

（広報委員 古澤成博）

受賞者一覧

学 長 賞：大津雄人

血 脇 賞：大竹智久、橘 継国、大畑菜々子、橋口あやこ

井上 裕賞：田中亜生

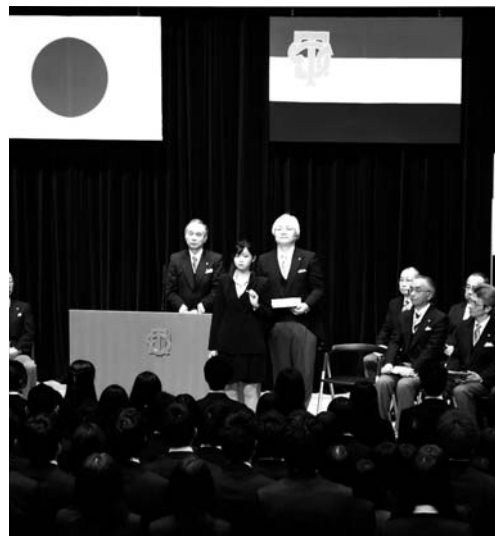
精 励 賞：渡邊豪士、宗像花楠子、星野立樹、青木絵里香
兼子ゆり、平岡正行、橘 継国、大畑菜々子
岡野日奈、川口哲司、黒田祥太、村上彩花

卒業論文賞：新井 敬、梨 正典、青木絵里香、齋藤 壮
久保寺理人、田中亜生、岩脇淳志、松田祐明
渡邊豪士、鹿野哲生

去る3月15日、卒業証書授与式に引き続いて、新館教室において大学院修了式が執り行われ、矢崎同窓会長より同窓会長賞が贈られた。



平成26年度 母校入学式



去る平成25年4月5日(土)、陽春の穏やかな日差しが心地よい午後1時より、水道橋校舎新館の新血脇記念ホールにおいて、平成26年度東京歯科大学入学式が行われた。佐藤 亨学生部長の司会進行のもと、まず国歌「君が代」の斉唱が行われた後、河田英司教務部長が新入生一人一人の紹介を行った。

その後、まず井出吉信学長から以下のような訓示があった。「新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。東京歯科大学は皆さんを大切な仲間として心から歓迎します。本学の教育の特色は、歯科医師としての高度な技術や知識はもちろん、社会性や国際性を身に付け、人間性に優れた良識のある知性豊かな歯科医療人を育成することにあります。創立以来120年の歴史を誇る本学は、これまで培った豊かな実績の下に最先端の教育、研究、診療を行い、常に我が国の歯科医療を牽引しながら新しい知識と技術を学生に教え、最

新の医療を提供することで、国民から信頼される歯科医学教育機関として社会的使命を実践していることを自負しています。今回は32年の時を経て伝統の地である水道橋に戻り、新しい血脇記念ホールで行われる最初の記念すべき入学式です。この移転を機に、他大学、他研究機関と積極的に交流をし、学外における最先端のプロジェクト研究をさらに強化する考えです。社会のグローバル化が急速に進む中、国際的感覚を身に付けた次世代の歯科医師を育てるため、国際的視野を養うためのプログラムの一環として、成績優秀者が海外での姉妹校で研修を行う制度を実施しています。皆さんにとってこの6年間は、人生の中で最も華やかな大切な時です。水道橋を学びの拠点として、勉強、クラブ活動ともに熱い思いで学生生活を過ごしてください。卒業後、必ず東京歯科大学を卒業してよかったと思う時が来ます。私たち教職員は、自信を持って諸君を立

派な歯科医師に育て上げることを約束します。そして皆さんの中から、世界の歯科界をリードする人材が輩出されることを期待しています。」

続いて金子 譲理事長から次のような祝辞があった。「皆さんは、御両親から立派なDNAを受け継いでいると思いますが、この大学も独自のDNAを持って今まで来ています。それは、歴史によって培われたことですが、今から124年前に本校の前身を造られた高山紀齋という人の意志と、その後引き継いだ血脇先生の考えが基になっています。明治時代は、近代化に向かってあらゆるものが進んでいった時代。明治の中頃にやっと歯科の学校が出来ました。その前はすでに医師も歯科医師も国の試験がありましたが、学校に行く必要はありませんでした。自分で臨床の学問を勉強して、試験を受ければよかったです。当時は、塾とか教習所とかが代わりになっていたので、高山先生はそれはまず

いということで学校を作りました。しかし、10年間経営がなかなか上手くいきませんでした。そこで、血脇先生に引き継ぐことになりました。ただ、その10年間に歯科医学校という認可を受けた学校が3つあったのですが、その内、高山歯科医学院の他は全て廃校になってしまいました。それだけ経営が難しかったわけです。その中で、10年持ちこたえたことが立派だと思ひ、それを血脇先生に繋げたことがすごいことだと思っています。当時の学校は個人の持ち物だったので、つぶしても良かったのですが、そこに2人は使命感を持っていたと言えます。その使

命感の根本は「使命に沿って誠実に継続してきた」こと。これが東京歯科大学のDNAであります。このDNAは変えることができませんが、そのDNAから出てくるRNAは日常で変わってきます。このRNAは、学校が誠実に皆さんを教育して、大いに学生生活を楽しんでいただきながら立派な人間に育てたいということだと思います。大事なことは歯科医師になること。そのためには資格が必要で、試験制度である以上、試験があるのは当たり前です。その上で学生生活を楽しみながら成長をしていてもらいたいと思います。昔の学校は全て学校の規則の中に

「涵養」という言葉が使われていました。これは今でも変わっていません。皆さんの日々は無駄なこととはひとつもないと思って、いつも目的を持ってやっていくことが、東京歯科大学のDNAから皆さんを人間的に向上させていくものと思っています。」

続いて新入生を代表して長門慶さんが宣誓を行った後、学長より徽章が授与された。その後、校歌を高らかに斉唱して新血脇記念ホール初となる記念すべき入学式が閉じられた。

(広報委員 古澤成博)

平成26年度 新入生名簿

安部 如恵	梅田 有由	河津 里香	佐藤 彩夏	竹原 幸希
五十嵐 章智	江澤 明穂	菊池 幹悠	佐藤 真紀	多田 優
池田 彩音	大内 智也	菊地 済	柴原 果依	田中 詩織
池田 理香	大槻 実生	喜田 晴美	島上 孟秀	田中 希
池谷 侑	大西 真実	鯨井 桂子	島津 政長	田村 真理
石井 里和	大和田 碧	久保田 笑美子	白井 尊久	辻 圭佑
石川 曉美	岡本 静香	倉根 真子	白神 旭洋	土屋 絢
石川 早紀	小川 実希	黒松 真子	須佐美 康平	土屋 崇明
石島 美香	隠岐 安利紗	小泉 洋二郎	鈴木 杏樹	壺内 かれん
磯部 徹	奥村 知里	河野 陽介	鈴木 英理	土居 洋介
井田 知美	小倉 基寛	國分 大潤	鈴木 裕梨	永井 暁大
市場 光雅	小倉 梨果	小西 李奈	関 真都佳	中川 由希子
伊藤 愛理	小坂 悠樹	小林 寛子	瀬津 昂斗	中島 有彩
伊東 紘世	落合 朗大	小林 由紀子	芹澤 慎生	中島 佳希
伊藤 麻夏	鬼谷 慶子	小原 身知子	副島 さやか	長門 慶
井戸川 怜奈	角田 奈津季	小森谷 鍊	高木 理沙	中西 将大
井上 綾	葛西 佐保里	齋藤 佳美	高階 友博	中本 雅也
井上 大介	勝田 真央	坂入 彰	高田 真帆	夏目 賢一
岩上 昌人	加藤 悠	櫻井 忠裕	高良 麻呂	西原 孝博
岩崎 浩之	加藤 瑞希	佐塚 勇斗	武内 智子	野上 瑠子

野 並 久 晃	福 島 璃 美	松 井 香 奈	茂 木 将	吉 澤 翼
原 修三郎	古 谷 綜一朗	松 浦 葵	矢 島 圭奈子	脇 田 一 郎
原 田 怜 音	古 屋 優 人	松 下 文 香	山 田 智 史	和 田 勝 行
東 野 真 歩	保 坂 真太郎	松 本 昌 純	山 本 真 子	渡 辺 麻衣子
平 井 研 吾	星 沙弥佳	松 山 佳央理	湯 本 恵 理	
廣 瀬 恵	星 野 綾 香	宮 田 直 樹	吉 岡 直 哉	

平成26年度 第2学年編入（15名）

石 川 多慧子	小 林 裕	濱 崎 英理子	松 浦 由 佳	矢ヶ崎 理 紗
石 川 愛 佳	近 藤 周	坂 東 美 保	松 尾 裕 美	山 下 悠
小 林 嵩 史	谷 明日香	福 岡 佐 織	松 前 範 子	若 松 宏 実

平成26年度 東京歯科大学 入試ガイダンス日程

	開催日時（予定）	場 所	内 容
1	7月12日（土） 14時～16時	東京歯科大学 本館 13階 （水道橋キャンパス）	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 入試問題の解説（予定），大学紹介，個別相談（希望者）
2	8月2日（土） 13時～15時	東京歯科大学 本館 13階 （水道橋キャンパス）	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 入試問題の解説（予定），大学紹介，個別相談（希望者）
3	8月30日（土） 13時～15時	東京歯科大学 本館 13階 （水道橋キャンパス）	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 入試問題の解説（予定），大学紹介，個別相談（希望者）
4	9月28日（日） 13時～15時	東京歯科大学 本館 13階 （水道橋キャンパス）	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 入試問題の解説（予定），大学紹介，個別相談（希望者）
5	12月13日（土） 14時～16時	東京歯科大学 本館 13階 （水道橋キャンパス）	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 入試問題の解説（予定），大学紹介，個別相談（希望者）

※ 内容，開催時間等，変更になることがありますので，事前にお問い合わせください。

問合せ先：東京歯科大学 教務課（水道橋校舎新館） TEL：03-6380-9528

URL：http://www.tdc.ac.jp

なお，事前予約は不要です。

摂食嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科 水道橋病院稼働のご案内

科長 石 田 暁



当科は平成20年に千葉病院で開設された本学で最も新しい診療科です。7年目の今春、水道橋病院でも新たに診療を開始いたしました。

千葉では摂食嚥下リハビリテーションを主要診療項目としつつ、外来や在宅歯科診療を通じて地域の歯科医療機関や、要介護者、心身障害児などを支援する様々な職種の方々と円滑な医療連携体制を築いて参りました。

本年4月より教育病院となった水道橋におきまして、時代の変化に合致した臨床実習、臨床研修が実施できるよう、新規に稼働いたしました。担当歯科医師2名からのスタートとなりますが、診療科として最善の努力を重ねてゆく所存でございます。千葉と東京を同じ視点で見るとはゆきませんが、東京は全国的にみても比類なく高齢者数が増大しております。口から食べられなくてお困りの高齢患者様も多くいらっしゃるのが現状です。千葉における当科の臨床成果が、そのような方々にも役立つことを確信しております。

一般的な歯科診療は水を使用する処置が多いのですが、別の視点からみますと、受診者の誤嚥リスクをより早期に判断することが可能です。日常診療の中で、高齢患者様へのちょっとしたアドバイスを通じて、安心して食事を摂っていただくことができるのではと考えております。摂食嚥下について「どのよう

に対応したら良いのか？困ってしまう」というようなことがありましたら、是非ともご連絡ご相談をいただきたく存じます。また、患者様ご紹介につきましても、下記へご連絡ください。

なお、当科の外来診療は、水道橋病院2階総合診療室で行っております。訪問での診療をご希望の場合は、訪問先に直接おうかがいいたしますが、ご紹介元の先生と共に拝見することも可能となっております。

水道橋を拠点に同窓の先生方と、新たな連携体制を構築することが出来たら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



水道橋病院 摂食嚥下リハ・地域歯科支援科

医局（直通） TEL & FAX：03-6380-9221

診療室（連携室） TEL：03-5275-1614

Eメール：rishida@tdc.ac.jp

同窓会員より資料等が大学へ寄贈

烏犀角（サイの角）およびメノウ製スパチュラの寄贈を受ける

平成26年1月29日(水)、栃木県益子町在住の牟田紀一先生（昭和39年卒）から、ご先祖が100年程前にアメリカで購入し持ち帰った烏犀角および、ご尊父栄先生（昭和9年卒）が使用されていたメノウ製スパチュラをご寄贈いただいた。

烏犀角とはインドサイの角のことで、粉末を煎じて飲むと解熱効果があるとされ、古来より中国では漢方の生薬として珍重されてきた。日本には奈良時代に伝来し、

江戸時代には麻疹の特効薬として用いられた。漢方界ではなかなか手の入らない高貴薬と称されている。寄贈品の角も代々引継がれるなか解熱剤として使用され、削られて3分の1ほどの大きさとなり形もだいぶ変わっている。どれほどの価値があるのか、テレビのなんでも鑑定団に出品したところ500万円の値が付いた。サイはワシントン条約で取引が禁止されており、国内での譲渡しについても厳しく規制されている。今日では入手は極めて難しく、大変に貴重な資料である。



理事長と牟田先生

メノウ製スパチュラはシリケートセメントの練和に用いられた。銅製スパチュラではシリケートの硬いガラス粒子によって摩耗した鋼の粒子が練和物中に混入するため、硬質のメノウ製スパチュラが最適であった。寄贈品はメノウの練和部分が6センチ、全長は18センチほどあり、今ではあまり見かけない珍しい器具である。

頂戴したこれらの資料は、高価で貴重な資料であり、広く閲覧に供するとともに大切に保存し後世に伝えたい。



サイの角



スパチュラ

学校法人東京歯科大学理事長並びに平成26年6月1日からの法人役員新体制が決定いたしました。

○ 学校法人東京歯科大学理事長の選任

第8代理事長 水 野 嘉 夫

○ 平成26年6月1日からの法人役員新体制

水 野 嘉 夫	理事長（総括）
井 出 吉 信	常務理事（学務・人事・建設担当）
熱 田 俊之助	常務理事（校友担当）
石 井 拓 男	常務理事（財務・病院担当）
矢 崎 秀 昭	常務理事（庶務担当）
鹿 島 隆 雄	理事
金 森 越 哉	理事
西 田 次 郎	理事
大 山 萬 夫	監事
松 尾 邦 弘	監事

東京歯科大学学務等役職者

大学図書館利用のお知らせ

1. 開館時間

- ・新館図書館（4階）
月曜日～金曜日 8：45～19：30
- ・本館図書館（10階）
月曜日～金曜日 8：45～21：00
土曜日 8：45～17：00
- ・さいかち坂校舎図書館（7階）
月曜日～金曜日 8：45～20：00
- ・千葉校舎図書館
月曜日～金曜日 8：45～19：30
土曜日 8：45～13：00

※長期休暇期間は、開館日および開館時間が変更となります。ご利用の際は各校舎図書館までお問い合わせください。

水道橋校舎： 03-6380-9285
千 葉 校 舎： 043-270-3687

2. 休館日

日曜日、国民の祝日、第二土曜日、本学創立記念日（2月12日）、年末年始

3. 各図書館の所蔵資料

- ・水道橋校舎新館
医学・歯学専門図書
- ・水道橋校舎本館
医学・歯学雑誌（2013年以降発行のもの）
- ・千葉校舎
医学・歯学専門図書、医学・歯学専門雑誌
（2012年まで発行のもの）
- ・さいかち坂校舎
主に教養図書・雑誌

4. 同窓生への利用サービス

1) 閲 覧

図書館にある資料は、一部を除いて書架から自由に取り出して閲覧することができます。また、東京歯科大学図書館で契約してい

る電子ジャーナルを閲覧することもできます。

2) 複 写

各校舎に備え付けのコピー機がご利用できます。複写はセルフサービスです。お支払、ご利用方法等のお問い合わせは、カウンターまでお申し出ください。

5. 文献検索

図書館では、文献検索用として次のデータベースがご利用できます。

- ・医中誌 web
- ・PubMed
- ・CiNii
- ・Scopus ほか

上記データベースは図書館のパソコンから利用することができます。操作方法等で不明の際はカウンターにてお尋ねください。

6. 文献複写

来館が困難な場合、文献を複写しお手元まで送付するサービスを行っています。お申込みは、FAX（03-6380-9554）または図書館ホームページ「お問い合わせ」より承っております。お申込みの際は、住所・氏名・電話番号・FAX 番号・複写を希望する文献（資料名、巻・号・年、頁、著者名、論題）・卒業年および入手目的を明記して下さい。お急ぎの際は「速達」とお書き添えください。料金は文献到着後、同封する郵便振替用紙でお支払下さい。

※FAX、データでの文献送付は行っておりません。

— 入館について —

千葉校舎以外の図書館の入館につきましては、共通カードの発行などを前提に現在検討中です。決定次第お知らせを致しますので、それまでの間は入口にてお声をかけいただきますようお願い申し上げます。

支部のうごき

青 森 県 支 部

平成26年3月8日(土)、午後3時より、青森市内のホテル青森において、平成26年度青森県支部定時総会、学術講演会が開催され、27名の支部会員が出席しました。

総会は、船越良一副支部長の開会の辞で始まり、本田富彦支部長より挨拶がありました。その後ご来賓の玉井達人同窓会本部副会長より、同窓会の現況、若手同窓会員との連携、新血協記念ホール募金などについて、お話を頂きました。次いで、学術講演をして頂く、東京慈恵会医科大学教授の杉崎正志先生より、ご挨拶と、この春から鶴見大学教授として就任される旨のご報告がありました。

庶務報告、受章報告(住吉辰郎先生が厚生労働大臣表彰)の後、昨年度で任期を満了された、松山陽一前支部長と櫻田守利前監事へ

感謝状と記念品が贈呈されました。次に、昨年6月22日開催の第50回東北地域支部連合会役員協議会、総会の報告、11月17日に血協記念ホールにて開催された評議員会報告、11月25日の東北地域支部連合会支部長・幹事長会の報告がありました(於仙台)。監査報告は福士淳一監事より、適正であったことが伝えられました。

議事に移り、平成25年度各収支決算、本年度事業計画及び会費負担金、予算案などのすべての議案が可決承認されました。

その他の項目では、当日病気のため欠席された監事宮川克孝先生のご子息より、手術後の経過が良かったこと、お見舞のお礼についてご発言がありました。

学術講演会は杉崎正志慈恵医大教授から、「すぐわかる顎関節症

のスクリーニングテスト、患者QOL、そして治療手順」と題した講演を頂戴しました。臨床上困難な鑑別診断をいかに適切に行うべきかのポイント、その治療法、対処について、詳しく説明して頂きました。

講演後、全員で記念写真撮影を行い、別室において、懇親会が催されました。同窓会らしい、和やかでリラックスした雰囲気の中、歓談に華が咲きました。恒例の校歌斉唱で、お開きとなった後は、ホテル最上階のラウンジで二次会が開かれ、さらに一層の盛り上がりとなりました。春にはまだ、まだ遠い北国の寒さを同窓の熱気で見事吹き飛ばした夜でした。

(畑中政利 記)



群馬県支部

平成25年度定時総会、講演会、懇親会開催

平成26年3月15日(土)、前橋市のアニバーサリーコート ラシーネにおいて群馬県同窓会定時総会と講演会、懇親会が開催されました。当日は支部会員27名が出席し、同窓会本部から来賓、講演会講師として事業推進部常任理事蛭谷剛文先生、群馬県歯科医師会から、会長で同窓の村山利之先生をお迎えしました。

総会は原 茂総務の司会の下、石岡豪一副会長の開会の辞に続き、2名の逝去会員に黙祷を捧げました。引田正俊同窓会会長、清見能久同窓会顧問の挨拶に続いて、来賓の蛭谷先生より挨拶をいただき、村山先生からは群馬県歯科医師会の会務の執行に対する同窓会員の協力、支援に対する謝辞をいただきました。

その後、庶務報告があり、同窓会未入会対策の新規事業として、本部若手ネットワーク委員会の後援のもと、全国に先駆けて、県内の未入会者や県出身の在學生にも参加を呼びかけた拡大県人会を開催し、地元の同窓会がより身近で頼りになる存在と感じられたとの声に参加者から多く聞かれたことやその後数名の入会があり増員につながった成果が報告されました。

続いて、議長に備前島俊行先生が選出され議事に入り、事業計画案、一般会計並びに福祉共済部会計予算案が報告され、すべて可決承認されました。最後に黒田由紀子副会長の閉会の辞により総会は終了しました。

休憩後、蛭谷先生より大学の近況と寄付金の達成状況の報告と来年の同窓会創立120周年記念事業



についての説明に続いて「次期診療報酬改定について」と題して、改定のポイントを丁寧にわかりやすくご講演頂きました。講演会終了後、集合写真を撮影し、懇親会に移りました。川越文雄先生の乾杯のご発声のもと開宴し、終始和やかな雰囲気の中、年代の垣根を越えて各所で話に花が咲き、お酒もすすんで盛り上がりました。予定の時間をかなりオーバーしながらも、恒例である森下正教先生の名指揮の下、全員で大きな声で校歌斉唱し、武安一嘉先生の閉会の辞で名残惜しみながらのお開きとなりました。(小板橋正樹 記)



埼玉県支部

新年会開催

平成26年2月11日(祝)、浦和ロイヤルパインズホテルにおいて、大学から井出吉信学長と田崎雅和教授、明海大学から坂英樹准教授、同窓会本部から玉井達人副会長、埼玉県歯科医師会からは島田篤会長をお迎えして、埼玉県支部新年会が開催されました。

最初に主催者を代表し、2期目となった春山良夫支部長より挨拶がなされました。続いて、玉井先生には同窓会の動向を、特に矢崎執行部2期目の方針をご説明いただきました。埼玉県出身である井出学長からは大学の水道橋移転の進捗状況、入試、国家試験の状況についてユーモアたっぷりにご説明いただきました。また、島田篤会長からは埼玉県歯科医師会の活動や未入会対策についてご説明いただきました。そして、越谷の安井晃先生が厚生労働大臣より



安井 晃先生

「歯科保健事業功労」について表彰されたお祝いがなされました。

今回は大和田一彦先生、関口千栄子先生による保険ミニ講習もありました。臨床に直結する事例を物語風にお話しくださり、大変参考になりました。

祝宴に移り、支部顧問増田紀男先生の乾杯で開宴となりました。新入会員の田原紀彦先生と明海大学講師に就任された崎山浩司先生が紹介され、ご挨拶いただきました。美味しいお酒とすばらしい料理で楽しく歓談した後、毎年恒例のビンゴゲーム大会を行いました。



東歯大、明海大の先生方



た。皆さん、豪華なお土産を目論見、大いに盛り上がりました。さらにお酒も進み、年代の垣根を越えた会員相互の交流を楽しみましたが、そろそろ時間となり、校歌斉唱、記念撮影の後、名残惜しくもお開きとなりました。

(山崎真司 記)



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

横浜西部支部



平成26年春の総会報告

平成26年4月12日(土)、保土ヶ谷区の水口浩司君が幹事となり、横浜ホテルガーデンにて、総会が開催された。今回は、来賓3名、会員21名の総勢24名の参加があった。

会に先立ち、島村 大衆議院議員により、挨拶と活動報告がなされた。

総会は水口浩司君の司会の元、佐藤信之支部長より挨拶がなされ

た。その後、来賓である矢崎秀昭同窓会会長、金子 譲理事長、中島信也神奈川県支部連合同窓会副会長より、挨拶がなされた。報告として、水口浩司君より会員現況報告・会務報告が、高階皓三君より会計・監査報告が、矢崎秀昭同窓会会長より本部同窓会報告が、相庭常人君より連合同窓会報告がなされた。その中で、昨年逝去された相庭昇一君に対し、哀悼の意を表し、出席者全員で黙祷が

捧げられた。

その後、島田英明君の乾杯で懇親会が開かれた。その間、橋本美代子君の喜寿のお祝い金と、病氣療養中の続 孝君にお見舞い金が贈られた。終始和やかな雰囲気でお互いの親睦を深めあい、宴もたけなわではあったが、菅原政道君の閉会の辞の後、全員で記念撮影をして終了となった。

(渡瀬秀彦 記)



北 多 摩 支 部

平成26年2月15日(土)、パレスホテル立川にて平成25年度北多摩支部総会・懇親会が開催されました。

当日は、40年振りという大雪に見舞われながらも、多数の来賓、会員が参集しました。

総会は、奥野和志支部長の挨拶に始まり、議長には矢崎宣利先生が選出されました。

その後、会務報告が山根秀樹理事より、会計報告が岩崎進理事

より、監査報告が沼澤博監事よりなされ、賛成多数で承認され閉会となりました。

続いて、来賓の本部同窓会財部正治副会長より、本部における今年の出来事、各事業等のお話があり、本部の活動状況を詳しく知ることができました。

さらに北村晃理事より、発表されたばかりの平成26年度診療報酬改定についてお話頂きました。

懇親会は、来賓からの祝辞を

井上孝千葉病院病院長、浮地文夫東京地域支部連合会会長から、そして北村晴彦先生の旭日双光章綬章のお祝いをして、服部玄門先生の乾杯で歓談となりました。おいしい食事とお酒を満喫しました。そして、恒例の矢崎宣利先生指揮による校歌斉唱、集合写真撮影をして散会となりました。

(植松一郎 記)



掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日 時	演題及び講師 又は事業内容	会 場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成26年 7月13日(日) 午後2時～	「歯科治療中の全身管理－保有する 全身疾患を考慮した歯科診療－」 櫻井 学先生 (朝日大学歯学部総合医科学講座 麻酔学分野教授)	愛知県歯科医師会館 名古屋市中区丸の内 3-5-18 TEL 052-962-8020	愛知県支部 連絡先 担当・久野昌士 TEL 0569-43-1124	歯科関係 (歯科医師)

三重県支部



平成26年2月16日(日)に四日市都ホテルで、同窓会三重県支部定時総会、学術講演会、懇親会が開催されました。そして来賓として同窓会本部より臼井文規常任理事、有床義歯補綴学講座准教授の上田貴之先生をお迎えいたしました。

総会では加藤誠康支部長の挨拶の後、臼井文規先生より同窓会の現状、特に最近問題となっている若い先生の同窓会各支部への未加入について、大学在籍時より同窓会との結びつきを深める方策や、インターネットを利用した若手会員との連携強化など様々なご苦勞を伺いました。又、大学の新校舎への移転、120周年の記念事業につ

いてもお話いただきました。

議長は稲森幾太郎先生が選出され、報告事項や議事すべて円滑に行われました。又、その中で今年新たに入会された大橋卓史先生が紹介されましたが、2年ぶりの新人ということで非常に喜ばしいことです。

休憩をはさんで、上田貴之先生より「有床義歯の印象採得を再考しよう」との題でご講演いただき、コンパウンドを利用した従来よりの義歯印象法ではなく、より簡便に短時間でできる印象方法について教えていただきました。内容はチキソトロフィー性を有する印象材の有効利用ということで、少し難しい部分もありましたが、

みんな熱心に聞き入っていました。又、その他にも臨床のヒントになるであろう色々な事柄も、伺うことができました。

懇親会は大橋卓史先生の乾杯で始まり、おいしい食事とお酒をいただき和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。

(宮崎弘隆 記)



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

滋 賀 県 支 部

平成26年総会・学術講演会

平成26年3月2日(日)に滋賀県支部総会・学術講演会・懇親会が、滋賀県草津市ポストプラザ草津ホテルにて、理事会に引き続いて開催されました。

来賓として、東京歯科大学同窓会常任理事で東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座の佐藤 亨先生をお迎えし、例年よりすこし少ない20名の参加者でした。

総会は松田康男副支部長の挨拶で始まり校歌斉唱・物故会員への黙祷・藤居正博支部長挨拶・来賓紹介後、議事へと進みました。平成25年度事業報告・会計報告・平成26年度事業計画が承認されました。その後、支部長より「水道橋校舎施設整備のための資金募金について」滋賀県支部として、募金はしているが個人でされていない先生方に再度募金の声掛けをされました。協議事項として、今年100歳を迎えられる立木弥太郎先生に



同窓会本部から記念品が贈られることに合わせ、滋賀県支部からも記念品を贈ることが、全員一致で了承され、議事終了後、前支部長北村眞也先生に記念品が贈呈され総会は例年になく予定時間に閉会しました。

コーヒープレイクをはさみ、佐藤 亨先生に大学の近況報告・学術講演をおねがいしました。大学の近況報告では、昨年11月に行われた推薦入学選考で始まった平成26年度入学試験状況から、平成25年3月の国家試験合格状況まで、学生部長の立場で他大学との比較を交え詳しく説明していただ



き、大学の先生方の学生に対するご努力に感銘しました。

学術講演は、「最新のテクノロジーを応用した歯冠補綴修復治療」と題し、オールセラミックス歯冠修復法を臨床応用するために、我々が学生時代には習わなかったセラミックスの分類などの基礎知識、臨床での注意点を具体的に説明していただきました。

懇親会は、石田喜之先生のご発声で始まり市川校舎時代・稲毛校舎時代の話で盛り上がり、恒例の東京歯科大学予科「夕日は沈み」を斉唱しお開きとなりました。

(富山佳寿人 記)



兵庫県支部



兵庫県支部の総会報告と近況

平成25年度の総会と懇親会は、26年4月5日(土)6時より神戸市三宮の第一楼にて開催された。近年は高齢会員の死去、新入会員の減少など執行部は色々と思悩む、恒例のシーズン幕開け行事である。

総会は特に変化なく、西村支部長(明石市)の挨拶の後、議長に西村先生(美方郡)を選び、各種報告、会計と事業計画の諸議案が協議された。慎重審議の後、無事に可決され次年度の予算と路線が決まり終了。続いて懇親会に移り、来賓の兵庫県歯科医師会の豊川会長の祝辞の後、石田先生

(宝塚市)の乾杯により宴が始められた。先輩、後輩の垣根を取り払い懇親の杯を重ねて、盛り上がりを見せたが次回を約束して閉会。幸いにも物故会員はなく、新入会員として土岐真里佳先生(平成24年卒)が紹介された。先生は母校歯科麻酔で研修の後、神戸市歯科センターに勤務されている。

兵庫県支部の現況を簡単に紹介すると、現在、会員数53名、年間予算約200万円で運営しているが、人数と予算は猛スピードで減少している。県の人口は約560万人に約3,150名の歯科医師数で、東歯の存在感を維持するために支部長以下の役員が健闘している。各種

の問題が山積みしているが、最大案件は後継者に関する事項で、特に歯科医師に成ることを希望しない家族が出てきたこと、会員数の減少と共に、一部役員にその仕事量が増え非常に重荷に成ってきていることなどである。

(吉田朔也 記)

兵庫県支部役員名簿

支部長	西村 亮介	S 47卒
副支部長	中西 哲生	S 47卒
	難波 克明	S 47卒
副支部長・幹事長	四宮 敬司	S 50卒
副幹事長・庶務	村岡 光明	S 59卒
	成田 秀弥	S 59卒
幹事(会計)	川越 弘就	H 3 卒
	宮本 英人	H 8 卒
幹事(事業)	高橋 研之	H 2 卒
	吉田 達也	H 6 卒
	崎山 裕行	H 7 卒
	宮井 大介	H 10卒
	山本 晋也	H 12卒
	長谷川智子	H 4 卒
幹事(庶務)	塩見 周平	H 10卒
顧問	吉田 朔也	S 35卒
	宗本 匡由	S 42卒
	荻原 威雄	S 47卒



広島県支部



定時総会ならびに学術講演会

平成26年4月19日(土)シェラトンホテル広島にて、平成26年度東京歯科大学同窓会広島県支部総会、学術講演会、懇親会が開催された。

総会は平地茂雄副支部長による開会の辞に始まり野間 博支部長の挨拶の後、選出された桂 啓介議長が議事進行した。柏村 真専務理事による庶務報告では、慶事として旭日双光章を林 翔先生と岸田 允先生が受章、広島県知事表彰を歌野原 実先生が受賞されたことを紹介され、記念品が贈呈された。会務報告の後、議事事項では決算予算について上本佳孝理事が、監査報告を藤原 彰監事が説明し、全ての議案が滞りなく承認され、高橋秀樹副支部長による閉会の辞をもって終了した。

引続き本学歯科麻酔学講座主任教授一戸達也先生より「局所麻酔法の最近の知見～安全で確実な効果を得るために～」の演題で学術講演が行われた。効果的な表面麻酔法、リドカインとメピバカインの特性と使い分け、下顎孔伝達麻酔のコツなど臨床に即した実践的な内容で講演終了後小林万里恵座長の下、活発な質疑応答があっ



た。

その後大学の近況、国家試験の状況についてもお話しいただいた。

記念撮影の後、懇親会ではご来賓の片山 巖県歯副会長に県歯会の近況報告につづき、高木勇蔵前

支部長による乾杯の発声で宴が始まった。途中記念品贈呈や新入会員をはじめ若手の会員が紹介され、宴会は終始和やかに話の花が咲き、最後に恒例の校歌を斉唱してお開きとなった。

(横山晴洋 記)



クラス会だより

クラス会開催日程

踏 志 会（昭和41年卒）

と き 平成26年11月15日（土）～16日（日）

ところ 名古屋マリオットアソシアホテル

（JR 名古屋駅内）

五十鈴会

昭和25年卒

昭和25年（1950）卒業の五十鈴会は昨年で63回目のクラス会を迎えた。学友に会うと、遠い過去のように思える学生時代、そして希望を持って東歯を卒業した時をつい最近のように鮮明に思い出す。

随分と変わった人、ほとんど変わらない人、それぞれであるが、皆、東歯を卒業して60年以上経ってからもクラス会を開き、学友と青春時代を思い出し、語り合うことはクラス会の醍醐味であり、とても幸せなひとときである。

去年は、箱根一泊の旅であったが、今回は、1泊は辞め、総会に先立ち、東京で東歯大新校舎の見学を企画した。少人数にもかかわらず、井出学長自らの案内で病院の特殊処置室、基礎研究室、そして同窓会の寄付により設立した立派な新しい血脇記念ホールなどな



どを見学した。東歯が立派になって水道橋に帰ってきた事に、感心しながら、一安心した。

総会は、後楽園ドームホテル内のレストランで行なった。参加者は12名であった。（写真左から、金子、村上、伊藤、白須賀、大山夫妻、森山夫妻、齋藤、佐藤、スナップ写真の小倉夫妻）

6時から始まった会は、学生時代のことに始まり、今の大学、そして孫の結婚話など楽しい話に華が咲き、夜9時近くなり、又の再会を約し散会した。次回はメンバーが皆80歳を超えている為、昼

間の会にする事となった。開催時期は10月～11月を予定しているので今回出席出来なかった方の出席お待ちしております。

これからのこと：今回、お寄せ頂いた近況報告をまとめて、紙上五十鈴会としてお送りする準備をしております。唯、返信のない方には、お送り出来ませんので、今年の10月を過ぎても連絡がない時は、大山、村上、又は齋藤まで、ご連絡下さい。何時までもお元気で!!

又、お目に掛かりましょう。

（例会幹事 齋藤季夫 記）



十二期会

昭和39年卒

第48回東京大会報告

台風26号，その後，二つの台風が日本列島を襲った，秋10月に開催された「新校舎落成記念」と銘打った十二期会は初日のスケジュールを少し変更しただけで運よく成功裏に終了できました。

当日は特別会議室にて金子理事長の2時間余り有益なレクチャーを拝聴し，大いに感銘しました。さらに新校舎では我々の時代とは隔世の感を覚える新施設や研修設備などを，目に出来ましたことも，大きな収穫でした。その後予定通りの昼食では，品川プリンスホテルに場を移し，久しぶりの交流を楽しみました。所謂世界のバイキングを堪能した次第です。昼からは久しぶりに東京湾アクアライン（海ほたる）でやや波の荒い東京湾より横浜港などを遠望し時を過ごしました。



ホテルに帰ってからの総会・懇親会では次期の総会を北海道，それも道東にての開催を決定しました。道東の素晴らしい自然と，景観を味わってもらおうと「玉田・長谷川・前田・向山英彦」君にお願いして総会・懇親会を終了しました。

最終日には古都鎌倉を訪ねました。鎌倉報国寺は竹の庭と称し昼なお暗く一木一草が時を語り時代の情念が身に迫るようでした。

鶴岡八幡宮・高德院（鎌倉大仏）と散策も終り散会となりました。



○第49回大会北海道大会ご案内 （卒後50周年）

期日 平成26年6月20日（金）
～6月22日（日）

集合場所

「釧路」プリンスホテル
（釧路市幸町）

〒041-0843

函館市花園町20丁目7

代表幹事

向山英彦

TEL 0138-54-8825

FAX 0138-54-8825

（丹野 研 記）



七十七期会

昭和47年卒



学生に戻ったような講義室の写真、何時もこのように和やかで真面目に講義を聞いていたらナー



米寿の担任、中久喜先生が女性に囲まれ嬉しそう

4月19日土曜日、クラス会を開催いたしました。本年は、齋藤力君が新潟大学での活躍を終え、母校に戻ってこられましたので、記念講演を兼ねての開催となりました。

学生時代を思いだす様な水道橋の新校舎の9階の階段教室で、「守破離」という演題の講演でした。その内容は、齋藤力君が口腔外科在籍時代の恩師の教えを守り、その上で新潟大学では新たな技術を開発し、そして今、母校病院で後輩への教育を含めた日常の考え方、さらには趣味の「鉄ちゃ

ん？」としての楽しい話題も提供してもらいました。同級生ということ拔きに、感動と尊敬を覚える講演内容でした。(是非同窓会員もお聴きになることをお勧めします)。講演後、クラス担任だった中久喜先生から齋藤君の活躍を讃えていただくご挨拶をいただきましたが、その中で、「50～60は働き盛り」と活を入れられました。先生は90歳でお迎えがきたら100まで待てと追い返すそうです。まだまだお元気で今後も同期会に出席して頂けると思っております。

講演後に、東京ドームホテルに

会場を移し、協議の中でクラス会会長が市川豊君から小生にバトンタッチすることになりました。市川くん、22年もの長い間大変ご苦労様でした。また、次回同期会の開催が2年後の4月第3週の土曜日に東北（仙台）と決まりました。島くん、五十嵐（栄）くんを始め、東北ブロックの先生にはお世話になります。

懇親の場で同級生と過ごした楽しい時間はあっという間に過ぎ、2年後の再会を期して散会いたしました。（森岡俊介 記）



平成26年4月19日（土）東京ドームホテル、卒後42年、東京歯科大学同窓会77期会同期会

弥 生 会

昭和54年卒

第84期弥生会「卒業35周年記念・還暦を祝う会」開催される

平成26年5月17日（土）昼より快晴の空の下、第84期弥生会「卒業35周年記念・還暦を祝う会」が、52名の参加をえて水道橋校舎新館11階講義室にて開催された。

総会に先立ち、リニューアルされた水道橋本館と新館の見学会が実施され、冒頭佐藤 亨教授より水道橋キャンパス概要の説明があり、その後2班に分かれ同級生の佐藤 亨・末石研二両教授の引率のもと、新館と病院を見学させて頂いた。堀田准教授にも総合歯科診療室でご案内頂いた。病院施設ならびに新館教育施設は、私たちが学んだ40年前の迷路を張り巡らしたような旧水道橋校舎とは異なり、隔世の感あり溜め息をつくばかりの驚嘆であった。「稲毛は水平移動の距離が長かったが、今度の水道橋は上下の垂直移動が大変だね、昔は階段の上り下りは苦にならなかったが、今日はエレベーターのお世話になりっぱなしだ！」また「こんなに素晴らしい設備が揃ってきたのに最近の卒業生の技量が下がってきたのは何故？」とぼやく女医さん、「国家試験が大変だからよ！」と子を卒業させた父母の答え、更に国家試験断トツの合格率を維持している母校に敬服し、「我が同級生の教授陣の指導力は日本一だ！」と称賛する声も、色々な会話が行きかう流石170名全員卒業全員国試合格の学年の舌戦でした。見学会終了後、総会に移り、冒頭鬼籍に

入った恩師や同級生13人に対し黙祷を捧げその遺徳を偲んだ。次いで還暦を迎えた我々の変遷をスライドで在学時～卒業式～卒後のクラス会の記録へと頁をめくり、トピックスが紹介された。今回欠席の柴原孝彦くんのビデオレターも紹介された。続いて大分県中津市出身の筒井 豊くん(平成23年没)が4代に渡り保管してきた曾祖父さんが使用した明治24～26年発刊の「高山齒科醫學院講義録」8冊、齒科手術書1冊、解剖學書4冊合わせて13冊の贈呈式が行われた。金子 譲理事長先生に筒井ひとみ夫人より寄贈された。これらの書籍は高山齒科醫學院が明治23年に開学した翌年から発刊された大変貴重なもので、東京歯科大学にとり国宝級のお宝であると金子理事長先生より謝辞があった。

その後協議事項に移り、議長鳩貝尚志くんのもと円滑に議事進行し可決承認され終了した。

懇親会場を東京ドームホテルに

移し、記念撮影。眺望素晴らしき42階の「シリウス」の間からゆっくりと暮れゆく水道橋、神保町方面を睥睨しながら、片山 隆くんの司会で、佐藤くんの開会の辞、遠路鹿児島から上京の西（旧姓：城井）和子さんの乾杯のご発声により宴は佳境に入った。金子理事長からは還暦からの体調を慮るようにとの注意事項などを盛り込んだ楽しいご挨拶を頂き、続いて高橋俊之くんの千葉病院病院教授就任ならびに不肖小生の昭和大学高齢者歯科学客員教授就任の紹介があり、青島(旧姓：辻村)眞理子さん、黒岩(旧姓：内田)晴弓さんからお祝いの花束贈呈がされた。その後は学生時代に戻り談笑の輪が広がり、全員の楽しいスピーチリレーが続いた。

暮れゆく夕陽を背に瞬く間に時が経ち、末石くんの閉会の辞でお開きとなった。その後は皆それぞれ旧交を更に温めるためか水道橋畔の街の闇に吸い込まれて行った。(今村嘉宣 記)



出 藍 会

平成 5 年卒

平成25年11月16日(土), 水道橋, 東京ドームホテル42Fシリウスにて, 第98期出藍会の同窓会が開催されました。

5年振り, 通算3回目にあたる今回は, 卒後ちょうど20年目にあたる節目の年であり, 発起人の一人である中村有博君の『今年は絶対やらなきゃあ!』の呼び掛けに始まった今回の同窓会, 確実に準備不足は否めない状況での開催ながら, 総勢60名(ご家族, 恩師含む)が参加し, 大いに盛り上がった会となりました。

昨年は大学が水道橋に本格的に移転した回帰元年。まだまだ大変お忙しい時期であったにも関わらず, 3, 4年時に主任をして頂いた, 井出現学長, 5, 6年時の主任, 金子現理事長, 副主任の齋藤力教授, 佐藤 亨教授, と今や東京歯科大学の中樞を担われている, 錚々たる先生方に来賓としてご出席頂きました。

今回は時間の関係で, 残念ながらその新校舎や診療室の見学は叶いませんでしたが, 井出学長より, 現在の大学の近況や学生教育の変貌, 更には今後の東京歯科大学の未来像について, スライドを使って熱心にお話を頂きました。金子理事長には, 当時我々の主任に至られた経緯や, 齋藤教授や佐藤教授と共に, 我々を卒業させるのに苦勞されたエピソードなどを披露して頂き, 会場の笑いを誘っておられました。

そんなご登壇頂いた恩師の先生方をみて, 本当に我々は凄い先生

方に担任をして頂き, と同時に非常に感謝し, 誇らしく思ったのは私だけではなかったと思います。

その後, 佐藤教授の挨拶, 齋藤教授の乾杯に始まった宴は, 美味しいビッフェディナーと酒に舌鼓を打ちながら, 会場各所で恩師や旧友を交えての談笑が終始絶えない, 賑やかな会となりました。そして会終盤には毎回恒例の出席者全員の一言タイム。

太ったり, 額が広がったり, 髪が白くなったり, しわやしみが増えたり…, 出席者全員がそれぞれの20年の歳月を経ていましたが, 話せば昔と何も変わらず, そこにはあの頃の皆が居ました。

同期の中では一番早くに結婚して, すぐに女の子を授かった力武秀樹君。そのご息女がすでに我が校の1年生に入学したそうで, 今回一緒に出席もしていました。時の流れの早さにただただ驚かされるばかり。でも出席者全員がイキイキと堂々としていたのが印象的で, 皆いい顔してましたヨ!

最後は全員で円陣を組んでのなげかの校歌斉唱。

その後は写真室で, 赤い顔をしながらの記念撮影。更には階を変えての二次会突入と, 幹事の予想を超えての多数の参加者でしたが, 皆さん話題にこと欠かず, 閉店まで楽しい時間を過ごしていました。

20年はあっという間でしたが, これからも30年, 40年とこの仲間達と一緒に切磋琢磨, 歩んでいけたらと感じた, そんな会でありました。

今後は東京開催だけでなく, 地方開催も視野に入れ, ゴルフや宿泊を兼ねたり, また我々の期からもういよいよ准教授が誕生(石崎憲君, 遠藤隆行君)し, 他にも名を世間に馳せている優秀な面々もいることですから, そんな彼らの学術講演会を兼ねた同窓会開催なんてのもいいでしょう。

そんな次の同窓会の企画を皆で提案しながら, 楽しい会は終宴となりました。(相原一之 記)

追記, 同窓会 HP に續 宏之さん提供のスナップ写真も掲載中です。併せてご覧下さい。



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

百 期 会

平成 7 年卒

母校である東京歯科大学が水道橋に再帰した平成25年度の終わり、3月21日に東京歯科大学水道橋校舎本館で百期会総会を開きました。その後東京ドームホテルに場所を変え懇親会を行いました。総勢65名の参加で大変盛況な会となりました。私たちは卒業して早や18年経ちますが、実は全くの幹事の怠慢でありまして、今回が卒業後2回目の開催であります。当時主任を務めていただきました、恩師川口 充教授が今年度でご退任ということで、主賓としてご出席いただくことが叶いました。また、当時副主任でお世話になりました、櫻井 薫教授、加藤広之講師、西川慶一講師にもご参加賜り、大変盛況な会となりました。最初総会では、会計報告の後櫻井薫教授によるご講演を賜り、「東京歯科大学の現状報告」という題名で、東京歯科大学の移転の経緯、現在の教育体制、歯科医師国家試験の現状など大学の今につい



て詳細にお話しいただきました。次に総会の議案として、大学移転という大事業を達成した母校に少しでも恩返しができればとの思いで、百期会より幾ばくかのご寄附をさせていただくことで、満場一致の同意となりました。総会終了後は、本学に在籍中の渋川義幸君、古谷義隆君、村上 聡君を中心に、新館の見学、案内をして、東京歯科大学の新しい教室を見ていただきました。懇親会では、川口教授をはじめとする恩師のご挨拶、記念品の贈呈が行われ、途中本学在籍の笠原正貴君より千葉病院の思い出として、現在の稲毛の現状をスライド映像で皆に伝え



る一幕もありました。久々の再会であっても、学生時代と何ら変わらない友人たちに、私たちも、実はあの当時のままであることに気づかされます。前回の同窓会から10年も経過してからの開催であり、みな話に夢中で食べ物も飲み物も減らず、2次会から3次会へとまったく時間がいくらあっても足りない状況でした。まったくの反省の至りです。「次回は3年後に開きましょう」と幹事一同かたく約束を交わしました。百期会のみなさま、その際はまたご参加のほどよろしく願います。次回の再会を楽しみにしています。

(野村武史 記)



写真が同窓会ホームページ<<<http://www.tdc-alumni.jp>>>に掲載されています。

OB 会・グループ・サークルだより

口腔外科学教室創立90周年および精到会創立80周年記念式典の開催

平成25年9月7日(土)、ホテルメトロポリタンエドモンドにおいて定例の精到会（口腔外科学教室同門会）総会に続いて、上記式典が開催された。先ず、現部長による『温故知新－口腔外科学教室の更なる発展－』と題した講演が行われたのち、同ホテルで150余名の参加者による懇親会を挙行了。精到会幹事長の榎本洋史先生ならびに本学理事長の金子 譲先生のご挨拶に続いて、中久喜 喬名誉教授による乾杯のご発声のもと、まさに賑々しくかつ華やかな懇親へと移行した。旧水道橋病院そして千葉病院時代の思い出が多く語られ、教室90周年の功績を讃え合った楽しい時間であった。水道橋病院病院長の矢島安朝先生による中締めはあったものの、多くの参加者は水道橋橋畔の灯に繰り出して行き、まさに温故知新を文字通り実行した教室史の1ページを綴るひと時であった。

口腔外科学教室は、大正12年10

月15日に補綴科、保存科と共に3部門体制の一つとして遠藤至六郎教授によって開設された。遠藤先生はその前月の9月1日に米国・ドイツの留学を終え帰国されたが、その当日に関東大震災が起り、東京を中心にした大混乱を経験したことになる。木造建築はすべて灰塵と化し震災後の混乱のなか、病院とは名ばかりで窓のない1階の片隅に治療椅子が3台のみから遠藤教室は始まった。口腔外科部長の他、医員は大井 清先生一人、他に看護婦が1名いたのみであったと聞く。シンメルブッシュ消毒器2個が七輪の上で煮立っていた状況の中で、『世界レベルの歯科医師による口腔外科を目指す』想いで帰国された先生の胸中いかばかりか、お察しするに余りあるものがある。

決して順風満帆な船出ではなかった教室も、歴代の部長教授のもとで着実な発展を遂げ、今、隆盛期を迎えている。関東大震災の

天災から始まり、世界大戦と敗戦による戦災等、数々の艱難辛苦をその都度気力と英知で乗り越え、先人の努力によって今日の教室の礎が作られた。現役として迎える満90年の祝賀の榮譽に身の引き締まる思いを感じる。さらに教室の現役医員とOBの親睦団体である精到会は、遠藤口腔外科学教室誕生の満10年にあたる昭和8年10月に赤坂の山王ホテルにおいて設立した。『精到会』の言われは、当時校長の血脇守之助先生が論語の中から『深研精到』の言葉を選び命名された。

現在の口腔外科学教室は『私学の雄』、『歴史ある教室』の称賛に甘んじて胡坐をかいていないか自省の念を持つ。遠藤先生の『自学自習』、血脇先生の『深研精到』の教えを今一度心に刻み、襟を正して教室の更なる発展に尽力したい。(昭和54年卒 柴原孝彦 記)



東京歯科大学卓球部 創立100周年記念祝賀会 ご案内

母校卓球部に在籍された皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。母校卓球部は今を去る100年前の1914年（大正3年）に創部されて以来、今日まで100年の歴史を数えるに至りました。つきましては、この期を記念し、卓球部に在籍されていた先生方にお集まりいただき祝賀会を催すことにいたしました。

明治の末期、英国から日本に卓球が伝わり、慶応、早稲田、美校等で遊戯的に行われていましたが大正になり東歯に卓球部ができ、東歯、農大、宗教大の三校対抗戦

が行われました。これが、我が国最初の対抗試合で、現関東学生リーグ戦の発端となりました。大正10年、大日本卓球協会が誕生した時は、東歯がその重鎮としての役割をはたし、大正14年、第一回関東学生リーグ戦一部では、早稲田、立教などを破り初優勝し、昭和2年全国高専大会で団体優勝、関東学生リーグ一部で再優勝、同年極東オリンピック日本代表に小笠原君が選ばれ、東歯より初の国際選手を輩出しました。昭和4年、第1回医歯薬大会においても初優勝し、以後9連覇という快記

録を残し、『東歯至る所敵なし』といわれ黄金期を築きました（東京歯科大学創立70周年記念誌より抜粋）。

戦後は急速な卓球の普及により、選手数と練習量をもつ総合大学におされ、戦績等は今日に至りますが、水道橋に戻った今も30余名の現役部員が活動しております。

旧水道橋校舎中央ホールで、そして稲毛キャンパス体育館の卓球場で過ごしたOBの先生方、是非ともご参加いただきますよう下記ご案内申し上げます。

記

期 日 平成26年8月30日（土）
 会 場 ホテル メトロポリタン エドモント
 千代田区飯田橋3-10-8 Tel 03-3237-1111
 （飯田橋・水道橋駅から徒歩5分）
 時 間 受付開始 17:30
 祝賀会 18:00

連絡先 東京歯科大学卓球部創立100周年記念祝賀会準備会
 北村 新 TEL 042-337-0082

（昭和58年卒 北村 新 記）



「近江誠一東京歯科大学草薙剣友会会長退任記念会」が開催

平成26年4月6日東京ガーデンパレスにおいて近江誠一草薙剣友会（剣道部OB会）会長退任記念会が開催されました。近江会長は昭和63年11月19日の草薙剣友会総会で溝上喜久男先生ご逝去以来空席であった草薙剣友会会長に選出され、以来四半世紀にわたって本学剣道部部員やOBにとっての支えとして会長職を務められてきました。その功績をたたえ、忍足功師範（範士八段）を来賓にお招きし退任記念会が開催されました。会場には遠方から参加したOBと現役剣道部員を交えて50名を超える方々が近江先生へのこれまでの感謝のため集まりました。初めに剣友会会長を引き継ぎました山根源之先生（S45年卒）より経過を含めたご挨拶を頂きました。続いて剣道部部長田崎雅和先生（S53年卒）、ご来賓の忍足功師範からお言葉を頂きました。現役学生部員を代表して中野僚子さん（5年生）から花束贈呈を、そして山根源之剣友会会長から記念品が贈呈されました。

剣道部は大正8年溝上喜久男先生（T7年卒）により武道部として創立されましたが、戦中、戦後と活動は一時停止しておりました。しかし、近江先生と同期の駒形周三先生（S36年卒）や神原常経先生（S37年卒）方々の熱い思いで昭和31年に加藤倉三部長のもと剣道部が復活し、現在に至っております。長久保武彦先生（S40年卒）の乾杯のご挨拶では、OB会名である「草薙剣友会」の草薙の剣の由緒と、戦後剣道部を盛り上げ現在に至ることができた当時の情熱と今後も草薙剣友会を大切にしたい旨のご挨拶を頂きました。

近江先生からは剣道部に新しい部旗を贈呈されるとのことで、田崎雅和剣道部部長に目録が渡されました。そして先生から「剣道は、相手の気持ちを深く読み、自分の心の鏡に相手に映し出す。澄んだ心で相手に向かわなければ映し出すことができない。自然体で心の波の無い状態で向かい合うことが大切である。臨床において



も、相手＝患者の身になって診ることで真の医療となるという点で剣道と相通じるものがある。」とのお言葉を頂きました。

祝宴の中で駒形守俊先生（H2年卒）、田中 彰（S50年卒）先生、寺岡洋一先生（S49年卒）からご祝辞をいただき、新入会員、現役部員の紹介など和やかな会を持つことが出来ました。終わりにあたり、渋谷忠幸先生（S41年卒）のもと、剣道部創部100周年にむかって全員で肩をくみ一つになり大きな声で校歌を斉唱、笠井裕先生（S41年卒）の音頭で万歳三唱が行われ、高橋諄吉先生（S40年卒）の閉会の辞をもって感謝の会をお開きとし、二次会会場に向かいました。

（昭和60年卒 佐々木葉子 記）



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

庶務日誌

3月

矢崎会長出席

1) 理事会

15日(土) 第119期卒業生主催謝恩会

3月29日(土) 第2回理事会

矢崎会長出席

15日(土) 群馬県支部総会(出張要請なし)
学術講演会 講師・蛭谷剛文先生
(東京都開業)

2) 委員会

3月3日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(プログラム委員会)

19日(水) 千代田支部学術講演会
講師・矢島安朝教授(母校)

6日(木) 学術事業交流についての協議会

11日(火) 事業推進部卒後研修委員会

12日(水) 広報部広報委員会

4) 事業

20日(木) 事業推進部社会保障制度研究委員会

3月13日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府
県歯会長と同窓会役員との懇談会懇
親会

24日(月) 会務運営協議会

14日(金) 新入会員オリエンテーション

24日(月) 事業推進部卒後研修委員会

(No.2 ベーシックセミナー打合せ)

17日(月) 水道橋病院臨床研修歯科医修了者へ
のオリエンテーション

25日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画
会議

26日(水) 総務・厚生部総務厚生委員会

24日(月) 千葉病院臨床研修歯科医修了者への
オリエンテーション

27日(木) 事業推進部新進会員のつどい準備会

28日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会
(インプラントセミナー打合せ)

25日(火) 市川総合病院臨床研修歯科医修了者
へのオリエンテーション

31日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(No.1 臨床実技セミナー撮影会)

4月

31日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(No.3 臨床セミナー打合せ)

1) 理事会

4月23日(水) 第2回常任理事会

3) 出張

3月1日(土) 全国歯科大学同窓会・校友会
日歯連盟参与会議 矢崎会長出席

2) 委員会

4月1日(火) 東京医科歯科大学歯科同窓会との学
術懇談会

2日(日) 滋賀県支部総会(出張要請なし)
学術講演会 講師・佐藤 亨教授
(母校)

3日(木) 同窓会創立120周年記念事業実行委
員会

7日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒
業証書授与式 矢崎会長出席

3日(木) 事業推進部臨床セミナー委員会
(No.1 臨床実技セミナー予演会)

8日(土) 青森県支部総会 玉井副会長出席
学術講演会 講師・杉崎正志先生
(東京慈恵会医科大学歯科学教室教授)

4日(金) 学術事業交流についての協議会

4日(金) 会計連絡会

15日(土) 第119回東京歯科大学卒業証書・学
位記授与式 矢崎会長出席

5日(土) 事業推進部若手ネットワーク委員会
(全体委員会)

7日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(No.5 臨床セミナー打合せ)

15日(土) 大学院修了式(会長賞授与)

11日(金) 広報部広報委員会

11日(金)	総務・厚生部ゴルフ大会委員会	5月	
14日(月)	会務運営協議会	1) 理事会	
14日(月)	事業推進部臨床セミナー委員会 (プログラム委員会)	5月24日(土)	第3回理事会
18日(金)	事業推進部社会保障制度研究委員会	2) 委員会	
18日(金)	総務・厚生部総務厚生委員会	5月1日(木)	同窓会創立120周年記念事業実行委員会 式典・講演会小委員会
22日(火)	事業推進部アカデミア生涯研修企画会議	1日(木)	同窓会創立120周年記念事業実行委員会 祝賀会小委員会
23日(水)	事業推進部卒後研修委員会 (No.2 ベーシックセミナー最終予演会)	1日(木)	事業推進部臨床セミナー委員会 (インプラントセミナー打合せ)
25日(金)	事業推進部臨床セミナー委員会 (No.3 臨床セミナー打合せ)	8日(木)	事業推進部臨床セミナー委員会 (No.5 臨床セミナー打合せ)
28日(月)	事業推進部医療教養委員会	9日(金)	事業推進部臨床セミナー委員会 (No.6 臨床実技セミナー打合せ)
3) 出張		9日(金)	事業推進部臨床セミナー委員会 (インプラントセミナー打合せ)
4月4日(金)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式 矢崎会長出席	12日(月)	広報部広報委員会
5日(土)	東京歯科大学入学式 矢崎会長出席	12日(月)	事業推進部臨床セミナー委員会 (研究委員会B)
7日(月)	大学院入学式 矢崎会長出席	14日(水)	事業推進部卒後研修委員会 (No.2 ベーシックセミナーチューター打合せ会)
12日(土)	山形県支部総会 高橋専務理事出席 学術講演会 講師・山下秀一郎教授 (母校)	15日(木)	渉外部渉外委員会東歯同窓国会議員を支える会
12日(土)	横浜西部支部総会 矢崎会長出席	16日(金)	事業推進部卒後研修委員会
19日(土)	昭和大学歯学部同窓会設立三十周年記念式典・祝賀会 矢崎会長出席	19日(月)	会務運営協議会
19日(土)	広島県支部総会(出張要請なし) 学術講演会 講師・一戸達也教授 (母校)	20日(火)	事業推進部臨床セミナー委員会 (研究委員会B)
26日(土)	宮城県支部総会 矢崎会長出席 学術講演会 講師・柴原孝彦教授 (母校)	26日(月)	総務・厚生部総務厚生委員会
4) 事業		26日(月)	事業推進部臨床セミナー委員会 (No.3 臨床セミナー打合せ)
4月20日(日)	TDC 卒後研修セミナー2014 卒研セミナーNo.1 臨床実技セミナー「極めよう!! 外科小手術と顎顔面の解剖学」	26日(月)	事業推進部医療教養委員会
21日(月)	井出学長との座談会	27日(火)	事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
		27日(火)	事業推進部新進会員のつどい準備会
		28日(水)	総務関係連絡会
		3) 出張	
		5月10日(土)	四国地域支部連合会総会・支部長会 矢崎会長, 高橋専務理事, 久保田理事出席

- 学術講演会 講師・井上 孝教授
(母校)
- 14日(水) 六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会
- 17日(土) 鳥取県支部総会 宮地副会長出席
学術講演会 講師・宮地建夫先生
(東京都開業)
- 30日(金) 京橋支部学術講演会
講師・稲葉孝夫先生(東京都開業)
- 31日(土) 福島県支部総会 矢崎会長出席
学術講演会 講師・古澤成博教授
(母校)
- 4) 事業
- 5月18日(日) TDC 卒後研修セミナー2014 卒研
セミナーNo.2 ベーシックセミナー
「初診時に求められる診査・診断の
スキル」
- 5) 監査会
- 5月23日(金) 監査会
- 6月
- 1) 理事会
- 6月25日(水) 第3回常任理事会
- 2) 委員会
- 6月2日(月) 事業推進部卒後研修委員会
- 3日(火) 同窓会創立120周年記念事業実行委
員会 祝賀会小委員会
- 4日(水) 渉外部渉外委員会
- 5日(木) 同窓会創立120周年記念事業実行委
員会式典・講演会小委員会
- 6日(金) 事業推進部アカデミア事業連絡会
- 9日(月) 事業推進部社会保障制度研究委員会
- 9日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(No.3 臨床セミナー最終予演会)
- 10日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会
(プログラム委員会)
- 11日(水) 広報部広報委員会
- 16日(月) 会務運営協議会
- 17日(火) 事業推進部医療教養委員会
- 23日(月) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 24日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画
会議
- 30日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(臨床実技セミナー打合せ)
- 3) 出張
- 6月7日(土) 近畿地域支部連合会支部長会
臼井常任理事, 戸村理事出席
- 13日(金) 下谷支部学術講演会
講師・高松 潔教授(母校)
- 14日(土) 九州地域支部連合会支部長会
高橋専務理事, 田部理事出席
- 14日(土) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当
者連絡会 宮地副会長出席
- 15日(日) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当
者連絡会 宮地副会長出席
- 21日(土) 東北地域支部連合会総会・支部長会
矢崎会長, 臼井常任理事, 椎木理事
出席
学術講演会 講師・片倉 朗教授
(母校)
- 4) 事業
- 6月19日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府
県歯会長と同窓会役員との懇談会懇
親会
- 22日(日) TDC 卒後研修セミナー2014 卒研
セミナーNo.3 臨床セミナー「診療の
基本技術」
- 28日(土) TDC 卒後研修セミナー2014 卒研
セミナー特別企画 インプラントセ
ミナー - 臨床から基礎へ, 基礎か
ら臨床へ- 「Evidence-Based-Clini-
cal Practice for Implant」
- 29日(日) TDC 卒後研修セミナー2014 卒研
セミナー特別企画 インプラントセ
ミナー - 臨床から基礎へ, 基礎か
ら臨床へ- 「Evidence-Based-Clini-
cal Practice for Implant」

—— お人好しの片桐敏夫君を悼む ——

四期会(昭和31年卒)



片桐敏夫君は、夫人の章子さんの愛に満ちた眼差しに看取られながら、平成26年2月25日早朝、81歳の生涯を静かに閉じた。(合掌)

敏夫君は、知る人ぞ知る有名な柳橋の料亭田川の息子である。親の遺伝子を受け継いだのか、無類のお人好しで、人を誇るとか、いじわるをすとかは生涯無縁な人間であった。家の前が芸者置き場、いわゆる検番で、芸者の出入の激しい所だったので、敏夫には

目の毒だと親が心配し、大学に入ったときには、近くの別の所へ下宿させられた。しかし、親の心配とは無縁に、彼は専ら秋葉原をうろついては新材料を集め、当時珍しかったテープレコーダー作りに熱中していた。友達に頼まれれば、だれかれに関係なく気軽にOKして、一生懸命作ってくれた。そんな彼はクラスメートからは勿論大学の先生方にも好感を持たれていた。卒業後は慶應病院へ勤務の傍ら上條教授の許で研究を許された。もうじき学位論文が出来るという矢先、スキー場で生死

を彷徨う大怪我をした。驚いた教授は、死んだら大変とばかり可愛いがっていた彼の為に、急遽論文審査のお膳立てをし、無事に学位をとらせた。その後彼は奇跡的に助かった。元気になった彼の姿をみた教授は、「良かったなあ」と心から喜んだという。彼の優れたお人好しが、教授を動かしたのだ。彼の人柄がわかる一コマである。

さようなら！敏夫君

(昭和30年卒・倉橋良彰 記)

逝 去 会 員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 23 卒	小 枝 泰 司 (88歳)	東京都品川区	26. 2. 4
●昭 34 卒	若 松 晋 (78歳)	埼玉県入間郡	26. 2. 4
●昭 54 卒	関 口 恵 一 (59歳)	埼玉県さいたま市	26. 2. 6
●昭 26 卒	貝 塚 雅 信 (85歳)	東京都杉並区	26. 2. 10
●昭 20.9 卒	佐 野 健 (89歳)	東京都港区	26. 2. 11
●昭 24 卒	新 田 義 昌 (85歳)	愛知県名古屋市	26. 1. 22
●推 薦 会 員	堺 み ち (101歳)	山形県長井市	26. 2. 14
●昭 26 卒	松 村 祐 治 (83歳)	長野県安曇野市	26. 2. 16
●昭 58 卒	藤 原 一 彦 (58歳)	神奈川県川崎市	26. 2. 18
●昭 24 卒	鈴 木 勲 (85歳)	群馬県藤岡市	26. 2. 19

●昭 25 卒	石 田 明 (85歳)	福島県会津若松市	26. 2. 21
●昭 25 卒	片 山 公 平 (84歳)	静岡県静岡市	26. 2. 21
●昭 19.9 卒	泉 川 勇 (90歳)	茨城県笠間市	26. 2. 21
●昭 31 卒	片 桐 敏 夫 (81歳)	東京都台東区	26. 2. 25
●昭 58 卒	安 井 一 男 (55歳)	東京都練馬区	24. 4. 8
●昭 33 卒	藤 波 潔 (80歳)	神奈川県川崎市	26. 3. 9
●昭 48 卒	菊 池 哲 (66歳)	千葉県成田市	26. 3. 27
●昭 20.9 卒	安 井 哲 男 (92歳)	東京都練馬区	26. 4. 6
●昭 48 卒	遠 藤 孝 平 (65歳)	東京都新宿区	26. 4. 5
●昭 38 卒	田 中 彰 (75歳)	東京都世田谷区	26. 4. 6
●昭 35 卒	島 田 弘 量 (78歳)	東京都国分寺市	26. 4. 7
●昭 19.9 卒	渡 辺 信 平 (91歳)	岡山県倉敷市	26. 4. 5
●昭 41 卒	進 藤 修 (72歳)	神奈川県中郡	26. 4. 5
●昭 20.9 卒	築 瀬 伸 (89歳)	栃木県宇都宮市	26. 4. 15
●昭 41 卒	野 村 昌 志 (72歳)	東京都文京区	26. 4. 15
●推 薦 会 員	山 根 た ま (98歳)	千葉県市川市	26. 4. 15
●昭 40 卒	高 岡 正 行 (73歳)	愛知県名古屋市	26. 4. 12
●昭 48 卒	鈴 木 雅 信 (65歳)	千葉県鴨川市	26. 4. 11
●昭 22 卒	貞 包 剛 男 (90歳)	東京都目黒区	26. 4. 20
●昭 52 卒	水 谷 裕 (61歳)	愛知県名古屋市	26. 4. 19
●昭 34 卒	金 川 一 郎 (79歳)	茨城県日立市	26. 4. 6
●推 薦 会 員	金 光 秀 明 (83歳)	千葉県千葉市	25. 9. 28
●昭 38 卒	小 泉 昌 平 (78歳)	神奈川県横浜市	24. 11. 27
●昭 29 卒	吉 川 郁 司 (86歳)	東京都狛江市	26. 4. 22
●昭 57 卒	山 田 哲 美 (57歳)	愛媛県今治市	26. 5. 4
●昭 30 卒	杉 山 健 (83歳)	千葉県市川市	26. 5. 2
●昭 13 卒	佐牟田 欣 一 (97歳)	埼玉県入間郡	26. 5. 3
●推 薦 会 員	山 田 達 雄 (97歳)	新潟県長岡市	26. 5. 16
●昭 20.9 卒	樋 口 潔 (90歳)	北海道斜里郡	26. 5. 22
●昭 23 卒	河 合 幹 (86歳)	愛知県名古屋市	26. 6. 1
●昭 30 卒	田 中 康 夫 (83歳)	静岡県浜松市	26. 5. 30
●昭 20.9 卒	五十嵐 俊 榮 (92歳)	山形県長井市	26. 6. 5
●昭 24 卒	鮎 澤 武 齡 (89歳)	東京都中野区	26. 4. 8
●昭 35 卒	大 内 晟 (79歳)	福島県郡山市	26. 6. 7

◆投稿規定

※平成26年度より、偶数月発行から年間4回（2，6，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数、備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想、詩、短歌、 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://tdc-alumni.jp/organization/dousoukai/kouhoubu/> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	— —	FAX 番号	— —	
投稿先 □に✓印チェック	同窓会会報	☐ カラーグラビア	☐ 追悼	☐ 支部のうごき
		☐ ふるさと自慢	☐ すいどうばし	☐ いなげ
		☐ クラス会だより	☐ OB, グループ・サークル	
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

◆へんしゅうこうき

★平成26年3月15日（土）に東京歯科大学卒業式が、4月5日（土）には東京歯科大学入学式が執り行われました。

今回は119期の卒業生123名が巣立っていきました。入学式は32年の時を経て伝統の地である水道橋に戻り、新しい血協ホールで行われた最初の入学式となりました。

そして125期128名の新入生が入学してきました。定員割れの歯科大学もあるなかで、幸い母校はその影響を最小限に抑え優秀な新入生を迎えたようです。

希望に満ちて入学してきた新入生の皆様には勉学に、そして各種活動におおいに励んでいただきたい。そしてこれから始まる6年間は人生にとって最も華やかで大切な時、水道橋を学びの拠点として、ぜひ充実した学生生活を過ごしていただきたいと切に願います。

★第107回歯科医師国家試験の合格者が発表されました。我が東京歯科大学の合格率は総合94.5%と29校の歯科大学で3年連続トップの座を守り、国公立平均をも大きく上回っておりました。同窓としてたいへん誇りに思える発表でした。もちろん学生達は優秀で素晴らしいのですが、彼らをサポートした大学関係者皆様の尽力に厚く感謝致します。晴れて歯科医師になられた先生方、おめでとうございます。「医はこれ濟生ひとへに仁なり…」この校歌に込められた伝統と歯科医学の発展を是非とも継承して行ってほしいと願います。

★今回のクラス会だよりは多数寄せられました。集合写真を拝見すると、皆さまの顔がたいへん高精細に写っており、最近のデジタルカメラの性能向上に感心させられます。私も10年ぶりのクラス会に出席しましたが、新校舎の見学においては最新設備の充実さに感嘆致しました。また、久しぶりの再会であっても学生時代と変わらない友人達と話が弾み、瞬く間に時間が過ぎていました。

★この度2004年以来の会員名簿作成に入りました。間違いの無い正確な名簿の作成はとても困難を極める作業となります。今号同封の問い合わせ用紙においては迅速且つ正確に対処していただきますよう宜しくお願いします。

★東京歯科大学同窓会ホームページは「スマホ・タブレット」「観たいコンテンツへダイレクトにアクセス」をキーワードに大幅なりニューアルをおこなって今年で1年が経過しました。アクセスパスワードを廃止し90%以上のコンテンツに「オープン化」を施しました。またSNSでは「東京歯科大学同窓会広報部」Facebookページにおいても逐次記事の掲載をしております。皆さまのご感想はいかがでしょうか、ぜひご意見頂きたいと思っております。（山口雅史 記）

広報部広報委員会

委員長	白田 準
副委員長	福井 雅之
	山口 雅史
委員	古澤 成博
	奥野 圭子
	佐々木 葉子
	皆川 雅彦
	渡邊 宇一
	島田 篤
	西村 哲雄
	横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成26年6月20日 印刷	発行人 小 池 修
平成26年6月25日 発行	編集人 白 田 準
東京歯科大学同窓会会報 第396号	東京歯科大学同窓会
同窓会ホームページアドレス	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
http://www.tdc-alumni.jp	電 話 (03) 5275-1761
	FAX (03) 3264-4859
	印刷所 一世印刷株式会社
	〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
	電 話 (03) 3952-5651 (代)